



BOM for Windows Ver.7.0
アーカイブ ユーザーズ マニュアル

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

本ユーザーズマニュアルに記載されている BOM はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。

Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

なお、本文および図表中では、「™（Trademark）」、「®（Registered Trademark）」は明記しておりません。

■ 目次

| | |
|--|-----------|
| 本ユーザーズマニュアルについて | 1 |
| 製品表記 | 1 |
| 使用方法 | 1 |
| 表記規則 | 1 |
| 第 1 章 アーカイブ | 2 |
| 1.1 BOM アーカイブの解説 | 2 |
| 1.1.1 BOM アーカイブサービス | 2 |
| 1.1.2 BOM アーカイブデータベース | 2 |
| 1.1.3 BOM アーカイブマネージャー | 2 |
| 1.2 BOM アーカイブを利用するには | 3 |
| 1.3 BOM アーカイブのシステム要件 | 4 |
| 1.4 アーカイブデータベース | 5 |
| 1.4.1 データベースシステムの選択 | 5 |
| 1.4.2 アーカイブデータベースのライフサイクル | 5 |
| 1.4.3 アーカイブデータベースのインストールとデータベースの作成 | 5 |
| 第 2 章 BOM 7.0 アーカイブデータベースのインストールと構築 | 6 |
| 2.1 BOM 7.0 アーカイブデータベース管理のインストール | 6 |
| 2.1.1 追加インストール | 6 |
| 2.1.2 新規インストール | 7 |
| 2.2 アーカイブデータベースの構築 | 8 |
| 2.2.1 事前準備 | 8 |
| 2.2.2 BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューの起動 | 9 |
| 2.2.3 既定のインスタンスへのアーカイブデータベース作成 | 9 |
| 2.2.4 名前付きインスタンスへのアーカイブデータベース作成 | 14 |
| 2.2.5 アーカイブデータベースの削除 | 18 |
| 2.2.6 トランザクションログとメンテナンスについて | 20 |
| 第 3 章 BOM アーカイブデータベース管理メニュー | 21 |
| 3.1 BOM アーカイブデータベース管理メニューの使い方 | 21 |
| 3.1.1 BOM アーカイブデータベース管理メニューの概要 | 21 |
| 3.1.2 <Ins'T'ance> : 名前付きインスタンスの指定 | 22 |
| 3.1.3 <T'nstall> : BOM アーカイブデータベースの作成 | 23 |
| 3.1.4 <U'ninst> : BOM アーカイブデータベースの削除 | 24 |
| 3.1.5 <S'tate> : サーバーの状態をチェック | 25 |
| 3.1.6 <F'ile> : ファイル情報をチェック | 26 |
| 3.1.7 <C'ount> : データの蓄積状況をチェック | 26 |
| 3.1.8 <B'ackup> : データベースのバックアップ | 27 |
| 3.1.9 <R'estore> : バックアップの復元 | 27 |

| | |
|--|-----------|
| 3.1.10 <D'etach> : データベースのデタッチ | 28 |
| 3.1.11 <A'ttach> : データベースのアタッチ | 29 |
| 3.1.12 <d'E'frag> : インデックスの再構築を起動 | 30 |
| 3.1.13 <V'iew> : BOM インスタンスの一覧表示 | 30 |
| 3.1.14 <rem'O've> : BOM インスタンスの削除 | 31 |
| 3.1.15 <u'P'grade> : データベースのアップグレード | 31 |
| 3.1.16 <Q'uit> : 終了 | 32 |
| 3.1.17 UAC 環境での動作 | 32 |
| 第 4 章 アーカイブ対象コンピューターの設定 | 33 |
| 4.1 アーカイブサービスのインストール | 33 |
| 4.2 アーカイブデータベース設定 | 33 |
| 4.3 アーカイブ設定 | 35 |
| 第 5 章 アーカイブデータベースへのデータ転送 | 37 |
| 5.1 アーカイブサービスによるデータ転送 | 37 |
| 5.2 ツール (BomCsvImporter.exe) によるデータインポート | 37 |
| 第 6 章 BOM アーカイブマネージャー | 39 |
| 6.1 BOM アーカイブマネージャーのインストール | 39 |
| 6.2 BOM アーカイブマネージャーの起動と終了 | 39 |
| 6.3 BOM アーカイブマネージャーの表示 | 43 |
| 6.4 アーカイブデータベースの各監視データやログデータの自動削除 | 45 |
| 6.5 データベースの表示設定 | 47 |
| 6.6 インスタンスプロパティ | 48 |
| 6.7 BOM ログビューアー | 49 |
| 6.7.1 ログビューアーの基本操作 | 49 |
| 6.7.2 パスワード変更 | 51 |
| 第 7 章 ヒストリー内のアーカイブ成功メッセージと書かれた格納時期のずれ | 52 |
| 第 8 章 SQL Server Express Edition へのインストールについて | 53 |

本ユーザーズマニュアルについて

製品表記

本ユーザーズマニュアルでは、下記の製品や製品の既定値について略称を使用しております。

| 正式名称 | 本マニュアルでの呼称(略称) |
|--|-----------------------|
| BOM for Windows Ver.6.0 | BOM 6.0 |
| BOM for Windows Ver.7.0 SR4 | BOM 7.0 |
| BOM VMware オプション Ver.7.0 SR4 | BOM VMware オプション |
| BOM 7.0 マネージャー | BOM マネージャー |
| BOM 7.0 監視サービス | BOM 監視サービス |
| BOM 7.0 アーカイブマネージャー | BOM アーカイブマネージャー |
| BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニュー | BOM アーカイブデータベース管理メニュー |
| BOM 7.0 コントロールパネル | BOM コントロールパネル |
| BOM 7.0 アーカイブサービス | BOM アーカイブサービス |
| Windows 7、Windows 8.1、Windows 10 | Windows クライアント OS |
| SQL Server 2008、SQL Server 2012、SQL Server 2014 SQL Server 2016、SQL Server 2017、SQL Server 2019 | SQL Server |
| Microsoft Management Console | MMC |
| C:\Program Files\SAY Technologies | BOM 7.0 インストールフォルダー |

使用方法

このユーザーズマニュアルには、BOM 7.0 を使用する際に必要となる詳細な情報と手順が記載されています。

なお、BOM 7.0 のインストールに関しては‘BOM for Windows Ver.7.0 インストールマニュアル’を参照ください。

本書はインストールが正常終了した後の実際の使用方法について記述しています。

このユーザーズマニュアルを使用するには、Microsoft Windows オペレーティングシステムについての実践的な知識が必要です。

表記規則

本ユーザーズマニュアルでは、下記の表記規則を使用しています。

| 表記 | 解説 |
|-------|---|
| ‘参照先’ | シングルクォート内(‘と’)は本マニュアル内、あるいは別のマニュアルの参照を示します。 |
| [ボタン] | 角括弧内([と])はボタン名を示します。 |
| <キー> | 山括弧(不等号記号)内(<と>)はキーボード入力を示します。 |

第1章 アーカイブ

1.1 BOM アーカイブの解説

BOM アーカイブとは、BOM 監視サービスで取得した監視の結果をアーカイブデータベースに蓄積するための仕組みです。

複数の監視対象コンピューターの監視ログを長期間保存することが可能になるため、障害履歴の長期保存/分析などに役立ちます。

- Windows インスタンス、Linux インスタンス、VMware インスタンスの監視ログをアーカイブすることができます。
- BOM 6.0 アーカイブサーバーからのアップグレードが可能です。
- アーカイブ対象データは、監視設定・監視ログ・ヒストリー・収集されたイベントログ・システム情報・VM ログビューアーデータの6種類です。
- アーカイブサービス・BOM アーカイブマネージャーと、アーカイブデータベース間は、SQL Server の通信プロトコルが使用されます。使用できる通信プロトコルは、TCP/IP のみです。

BOM アーカイブは、下記の3つのサービスおよび、コンポーネントで構成されます。

すべてを別々のコンピューターで行うことも、複数の役割を1台のコンピューターで行うことも可能です。

1.1.1 BOM アーカイブサービス

アーカイブサービスは、監視設定と、BOM 監視サービスで取得した監視データをアーカイブデータベースに記録するサービスです。

- BOM 監視サービスと共に使用します。
- アーカイブサービスは、“カスタム”セットアップでインストールしますが、後日変更セットアップで追加インストール可能です。

1.1.2 BOM アーカイブデータベース

SQL Server データベースサーバーに構築するアーカイブデータベース(bom6_archive)へ、BOM アーカイブサービスで記録したデータを蓄積します。

- BOM 6.0とBOM 7.0のアーカイブデータベースは共用可能です。BOM 6.0のアーカイブデータベースをご利用の場合BOM 7.0でアップグレードしていただくことにより継続利用ができます。

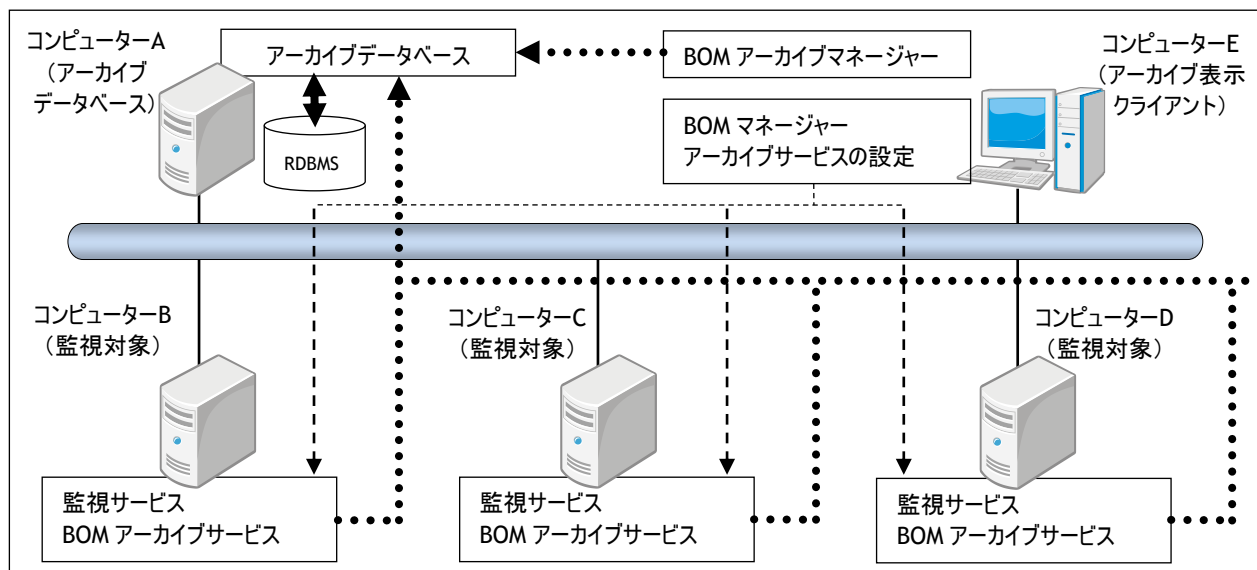
1.1.3 BOM アーカイブマネージャー

BOM アーカイブマネージャーは、アーカイブデータベースに蓄積されているログをリストやグラフで表示するためのコンソールプログラムです。

- BOM アーカイブマネージャーには、BOM 7.0 本体は必要ありません。
- BOM アーカイブマネージャーは、“カスタム”セットアップでインストールしますが、後日変更セットアップで追加インストール可能です。
- BOM 6.0のアーカイブデータベースはBOM 7.0のアーカイブマネージャーから閲覧が可能です。

1.2 BOM アーカイブを利用するには

下記に BOM アーカイブの構成例を示します。(役割ごとにコンピューターを分けた場合)



- アーカイブデータベースは、コンピューターA です。
- BOM 監視対象コンピューターは、コンピューターB、コンピューターC、コンピューターD です。
- BOM マネージャー操作端末は、コンピューターE であり、各 BOM 監視対象コンピューターに接続し監視設定を行います。

下記は、B、C、Dの各 BOM 監視対象コンピューターのローカルハードディスクに一定期間あるいは一定件数保存されている監視データを、長期保存や集中管理するためにアーカイブデータベースを利用するというシナリオを考えた場合の大まかな手順です。

1. コンピューターA に SQL Server をインストールします。
2. コンピューターA に“BOM アーカイブデータベース管理メニュー”をインストールします。
3. コンピューターA でインストールした BOM アーカイブデータベースセットアッププログラムを実行し、“BOM アーカイブデータベース”を作成します。
4. コンピューターB、C、Dの各コンピューターで BOM 7.0 の変更セットアップを実行し、“BOM アーカイブサービス”を追加します。
5. コンピューターE で BOM 7.0 の変更セットアップを実行し、“BOM アーカイブマネージャー”を追加します。
6. コンピューターE の BOM マネージャーから、コンピューターB、C、D に接続して、各コンピューターでアーカイブの設定を行った後に“アーカイブサービス”を開始します。
7. コンピューターE の“BOM アーカイブマネージャー”を起動して、コンピューターA に接続します。スコープペインの“BOM アーカイブ”ノードの下にコンピューターB、C、D が表示されているか確認します。

アーカイブの設定を行う際には、BOM マネージャーや監視設定方法についての知識も必要です。

詳細は、‘BOM for Windows Ver.7.0 ユーザーズマニュアル’をご参照ください。

“アーカイブデータベース”のインストール、“アーカイブデータベース”の作成方法については、‘第2章 BOM 7.0 アーカイブデータベースのインストールと構築’を参照ください。

1.3 BOM アーカイブのシステム要件

BOM 7.0 アーカイブデータベースは、以下のバージョンの Microsoft SQL Server に対応しております。

| サポートデータベース ※1 | |
|--|-----------------------|
| バージョン | エディション |
| Microsoft SQL Server 2008 (32-bit/64-bit) ※4 | Express Edition ※2 ※3 |
| | Workgroup Edition |
| | Standard Edition |
| | Enterprise Edition |
| Microsoft SQL Server 2012 (32-bit/64-bit) | Express Edition ※2 ※3 |
| | Standard Edition |
| | Business Intelligence |
| | Enterprise Edition |
| Microsoft SQL Server 2014 (32-bit/64-bit) | Express Edition ※2 ※3 |
| | Standard Edition |
| | Business Intelligence |
| | Enterprise Edition |
| Microsoft SQL Server 2016 | Express Edition ※2 ※3 |
| | Standard Edition |
| | Enterprise Edition |
| Microsoft SQL Server 2017 | Express Edition ※2 ※3 |
| | Standard Edition |
| | Enterprise Edition |
| Microsoft SQL Server 2019 | Express Edition ※2 ※3 |
| | Standard Edition |
| | Enterprise Edition |

※1. 各データベースが動作する OS は、それぞれのデータベースの動作要件に準拠します

※2. アーカイブデータベースとして Express Edition を使用することができますが、一部の機能が利用できません
アーカイブ対象コンピューターが 5 台以下の小規模環境、もしくは評価環境に限定してお使いください

※3. アーカイブ対象コンピューターが 10 台以上の環境はサポート対象外となります

※4. SQL Server 2008 R2 の各エディションも動作環境に含みます

※ BOM 7.0 アーカイブデータベースを構築する際、SQL インスタンスは SQL 混合認証で作成してください

1.4 アーカイブデータベース

1.4.1 データベースシステムの選択

アーカイブデータベースは、SQL Server をデータベースシステムとして使用します。

- SQL Server Express Edition については注意事項があります。

詳細は、‘第 8 章 SQL Server Express Edition へのインストールについて’を参照ください。

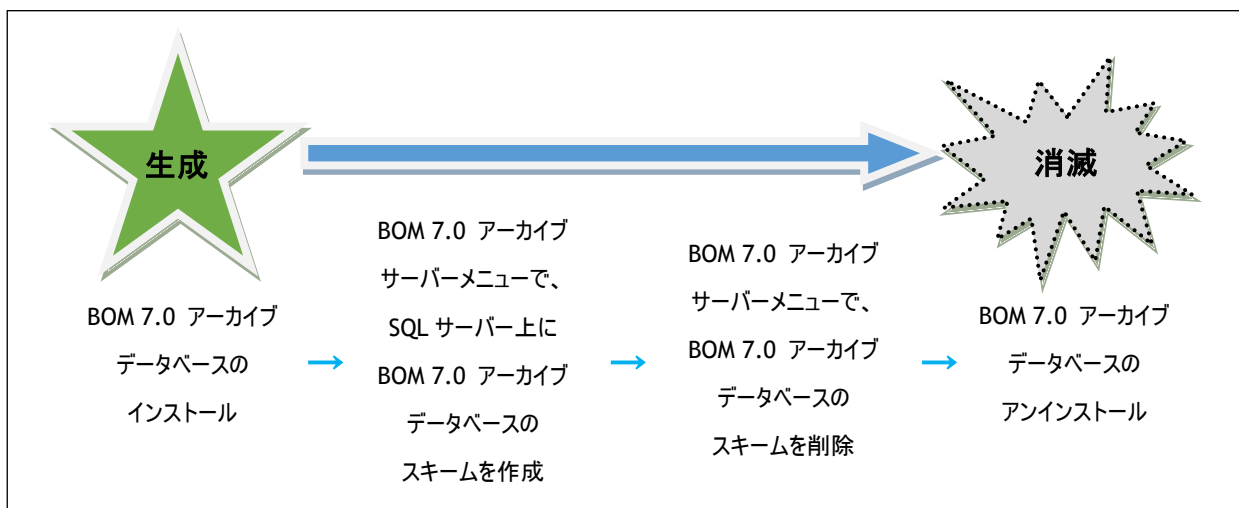
BOM 7.0 に Microsoft SQL Server ライセンスおよび CAL は含まれておりません。別途、必要数のライセンスをご購入ください。

Microsoft SQL Server のライセンスに関するご質問はマイクロソフト社のウェブページまたはサポート窓口へお問い合わせください。

アーカイブデータベースに必要な CPU・メモリ・HDD の性能は、アーカイブ対象コンピューターの台数と項目数により、変化します。

1.4.2 アーカイブデータベースのライフサイクル

アーカイブデータベースのライフサイクルは下記の図のようになっています。



1.4.3 アーカイブデータベースのインストールとデータベースの作成

アーカイブデータベースの作成は、“BOM アーカイブデータベース管理メニュー”から“BOM アーカイブデータベースの作成”を選択して行います。詳細は、‘3.1 BOM アーカイブデータベース管理メニューの使い方’を参照ください。

- アーカイブデータベースのセットアッププログラムは、BOM 7.0 本体のセットアッププログラムとは別に提供されており、アーカイブデータベースを構築するスクリプトをインストールします。
- アーカイブデータベースのインストールとアーカイブデータベースの作成方法は、‘第 2 章 BOM 7.0 アーカイブデータベースのインストールと構築’を参照ください。

第2章 BOM 7.0 アーカイブデータベースのインストールと構築

BOM 7.0 アーカイブデータベースは、Microsoft SQL Server 上に構築する、BOM 7.0 の監視データを蓄積するデータベースです。BOM で実行しているすべての監視のデータを蓄積し、また、イベントログ監視で検知した Windows イベントログの蓄積も可能です。

BOM Report オプションを追加導入することにより、蓄積した監視データからのレポート出力も可能です。

この章では、BOM 7.0 アーカイブデータベースを運用するためのプログラムのインストール方法と、Microsoft SQL Server 上のインスタンスに、アーカイブデータベースを構築する手順をご説明します。なお、インストール作業は管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

2.1 BOM 7.0 アーカイブデータベース管理のインストール

BOM 7.0 アーカイブデータベース(以下アーカイブデータベース)を構築し、データを蓄積するためには Microsoft SQL Server 2008/2012/2014/2016/2017/2019 のいずれかがインストールされており、SQL データベースサーバーが構築されている必要があります。また、アーカイブデータベースを構築する SQL Server インスタンスの認証モードは混合認証(SQL Server 認証モードと Windows 認証モード)に設定されている必要があります。

この項では、アーカイブデータベースの構築や管理に使用する BOM 7.0 コンポーネント“アーカイブデータベース管理”のインストール手順をご説明します。

2.1.1 追加インストール

この項では、BOM 7.0 アーカイブデータベース以外の BOM 7.0 コンポーネントがインストールされた環境への、追加インストールを行う手順をご説明します。

1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。

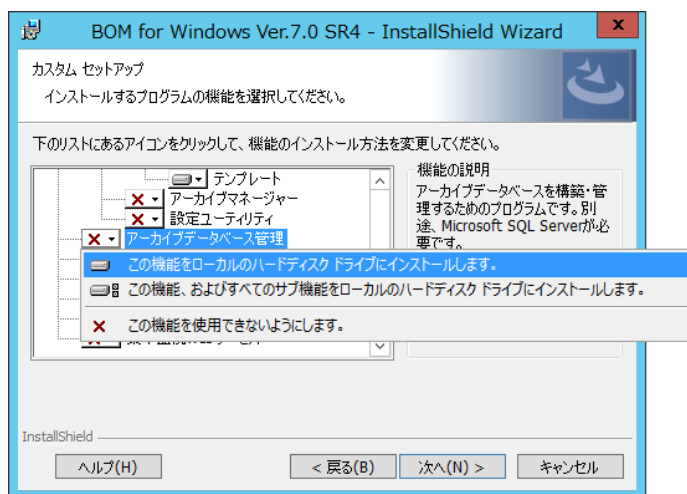
※ メディアの自動起動が設定されていない場合には、Windows エクスプローラーでインストールメディアを開き、“autorun.hta”を起動してください。

2. メニューから“アーカイブデータベース”をクリックし、セットアップウィザードを起動します。



3. “プログラムの保守”画面まで進め、“変更”ラジオボタンが有効になっていることを確認して[次へ]ボタンをクリックします。


4. “カスタムセットアップ”画面で“アーカイブデータベース管理”のアイコンをクリックし、“この機能をローカルのハードディスクドライブにインストールします。”を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



5. 以降はセットアップウィザードに従い、“アーカイブデータベース管理”のインストールを完了させます。

2.1.2 新規インストール

この項では、BOM 7.0 アーカイブデータベース以外の BOM 7.0 コンポーネントがインストールされていない環境へ、新規インストールを行う手順をご説明します。

1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。
- ※ メディアの自動起動が設定されていない場合には、Windows エクスプローラーでインストールメディアを開き、“autorun.hta”を起動してください。
2. アーカイブデータベースのリンクをクリックし、セットアップウィザードを起動します。

3. “セットアップタイプ”画面まで進め、“標準”または“カスタム”を選択して[次へ]ボタンをクリックします
 “カスタム”を選択した場合は、“アーカイブデータベース管理”がインストール対象となっている（ハードディスクアイコンになっている）ことを確認し、必要に応じて他の機能の追加やインストール先の変更をおこなって、[次へ]ボタンをクリックします。
4. 以降はセットアップウィザードに従い、“アーカイブデータベース管理”のインストールを完了させます。

2.2 アーカイブデータベースの構築

本項では、前項でインストールした“アーカイブデータベース管理”を使用して、BOM 7.0 アーカイブデータベースを構築する手順についてご説明します。

前項で行ったアーカイブデータベース管理のインストールでは、アーカイブデータベースは構築されていません。インストール後別途“BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニュー”を起動して構築する必要があります。

アーカイブデータベース管理のインストール作業の最後で、“アーカイブデータベース管理メニューを起動する”のチェックボックスを有効にしたままウィザードを終了した場合には、BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューが起動しますので、そのまま構築手順を実施してください。

BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューが起動していない場合には、“BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューの起動”を実施後、構築を行ってください。

2.2.1 事前準備

BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューを起動しアーカイブデータベースを構築するためには、あらかじめ Microsoft SQL Server がインストールされ、混合認証で作成されたデータベースインスタンスが動作している必要があります。

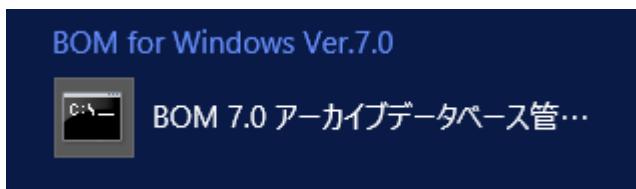
また、BOM 7.0 からリモートコンピューターのアーカイブデータベースへ監視データの蓄積を行う場合、通信経路にあるファイアウォールで Microsoft SQL Server が通信に使用するポートをファイアウォールでブロックしないようにしてください。

Microsoft SQL Server のインストールやデータベースインスタンスの作成方法、及び、Microsoft SQL Server が通信に使用するポートの詳細につきましては、Microsoft SQL Server のドキュメントをご参照ください。

2.2.2 BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューの起動

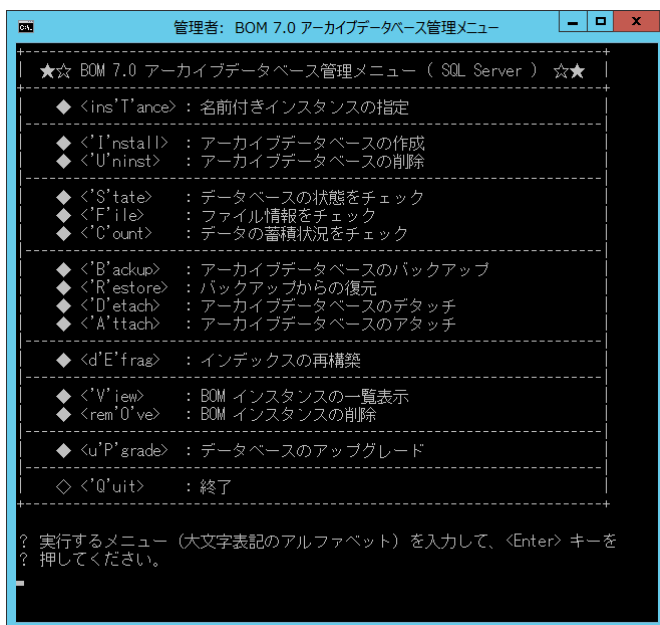
この項では Windows Server 2012 を例にして、BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニューの起動手順をご説明します。それ以外の OS 上で操作を行う場合には、適宜読み替えて実施してください。

1. “スタート”メニューから“BOM 7.0 アーカイブデータベース管…”を選択します。



※ 画面上に表示されているプログラム名称“BOM 7.0 アーカイブデータベース管…”は、OS により省略されている名称です。

2. “BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニュー”が起動します。



2.2.3 既定のインスタンスへのアーカイブデータベース作成

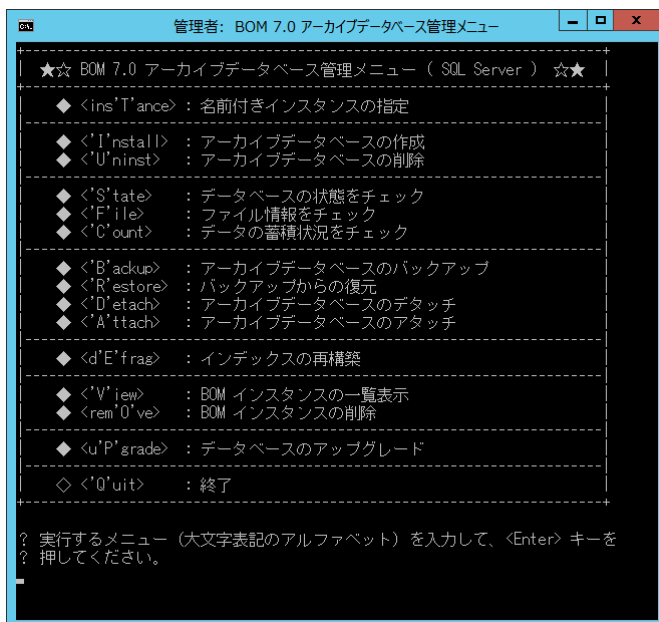
Microsoft SQL Server のインストール時に、インスタンス名のカスタマイズを行わない限り、“既定のインスタンス”でデータベースインスタンスが作成されます。

この項では Microsoft SQL Server の、“既定のインスタンス”へのアーカイブデータベース構築手順をご説明します。

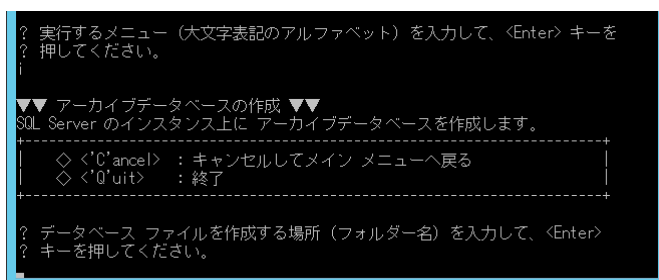
- ※ Microsoft SQL Server の各バージョンについて、Express Edition をインストールした場合、初期値ではインスタンス名“SQLEXPRESS”の名前付きインスタンスでデータベースインスタンスが作成されます。Express Edition を初期値通りにインストールした環境では、'2.2.4 名前付きインスタンスへのアーカイブデータベース作成'の手順で、アーカイブデータベースを作成してください。

3. アーカイブデータベースを作成します。

キーボードから<l>を入力し<Enter>キーを押下します。

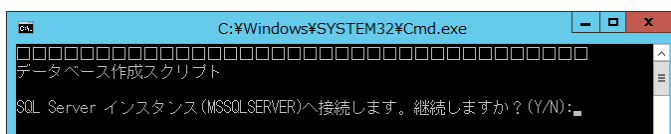


4. データベースファイルの保存先フォルダまでのアドレスを入力し、<Enter>キーを押下します。



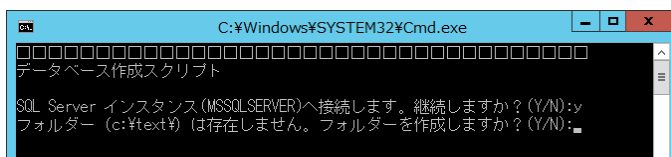
5. 別ウィンドウが開き、既定のインスタンス(MSSQLSERVER)への接続確認を要求されます。

キーボードから<Y>を入力し、続いて<Enter>キーを入力します。



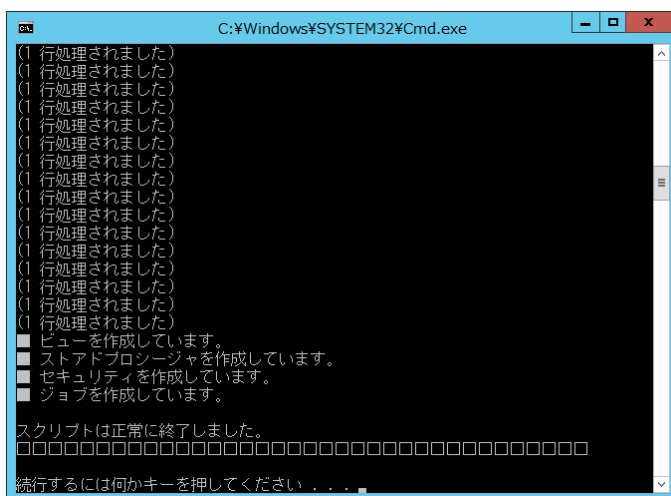
6. 項番 5 で指定したフォルダが存在しない場合、作成されます。

キーボードから<Y>を入力し、続いて<Enter>キーを入力します。



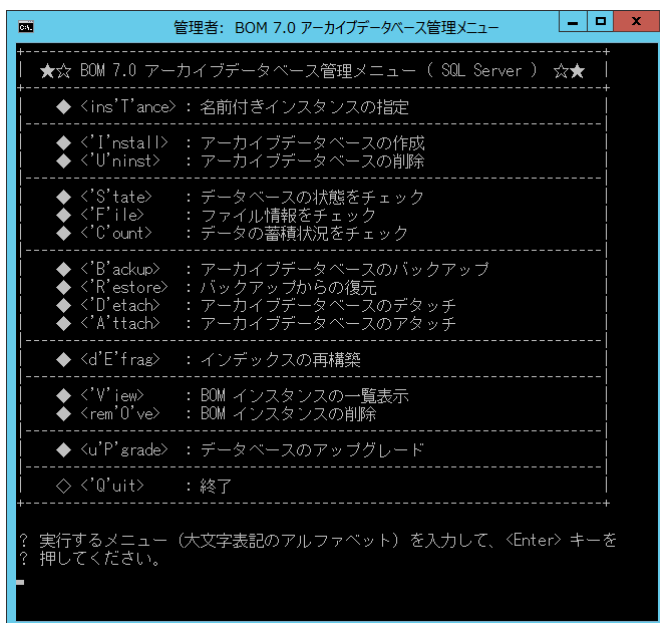
7. アーカイブデータベースが作成されます。

任意のキーを押下しメイン画面へ戻ります。



8. データベースの状態を確認します

キーボードから<S>を入力し、続いて<Enter>キーを押下します。



2.2.4 名前付きインスタンスへのアーカイブデータベース作成

Microsoft SQL Server のインストール時に、インスタンス名のカスタマイズを行った場合、“名前付きインスタンス”でデータベースインスタンスが作成されます。

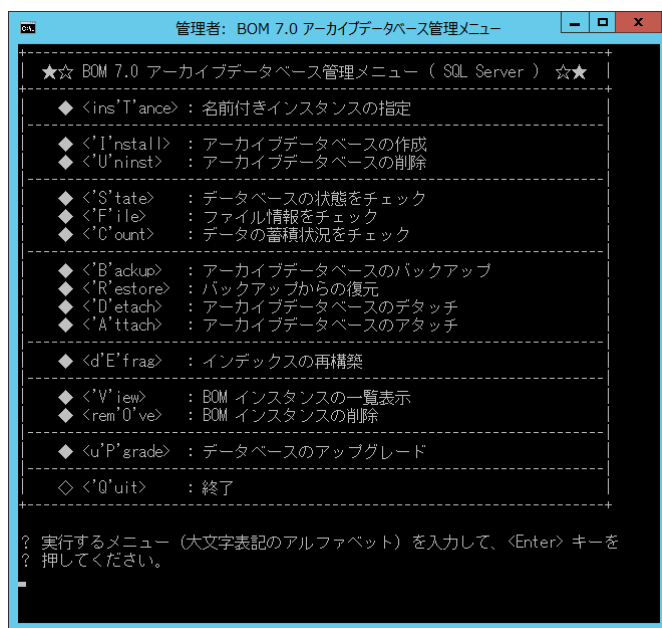
この項では Microsoft SQL Server の“名前付きインスタンス”として“BOM7ARCHIVE”を作成した環境を例として、アーカイブデータベース構築手順をご説明します。

※ 名前付きインスタンスのアーカイブデータベースに対してネットワーク越しにデータを蓄積する場合、SQL Server について以下の設定が必要です。

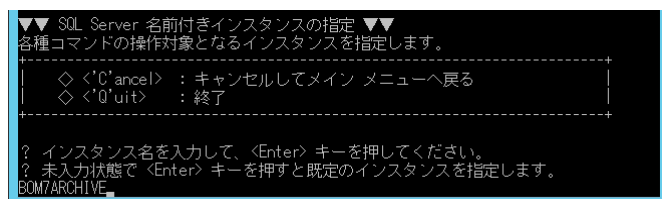
- SQL Server をインストールする際に「SQL Server Browser サービス」が有効化されていない場合は、Windows 管理ツールの「サービス」から、本サービスを「自動・開始」に変更してください。
- ファイアウォールが有効になっている場合、「SQL Server Browser サービス」が使用するポートおよび、名前付きインスタンスが使用する“sqlservr.exe”を受信規則に追加してください。

1. 名前付きインスタンスを指定します。

キーボードから<T>を入力し<Enter>キーを押下します。

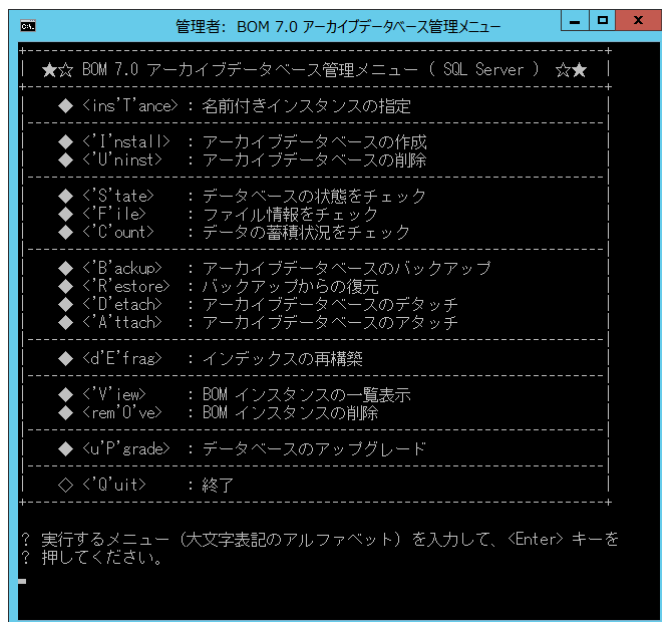


2. SQL Server のインスタンス名 (今回の場合は“BOM7ARCHIVE”)を入力し、<Enter>キーを押下します。

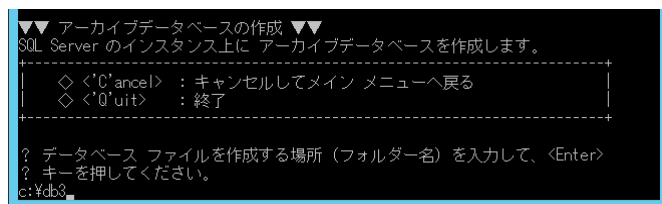


6. アーカイブデータベースを作成します。

キーボードから<l>を入力し<Enter>キーを押下します。

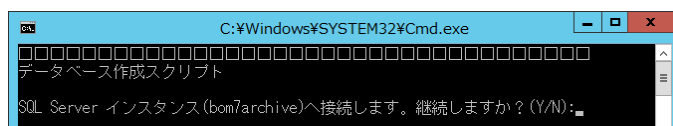


7. データベースファイルの保存先アドレスを指定し、<Enter>キーを押下します。



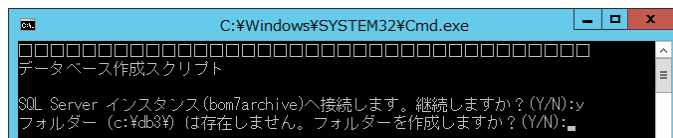
8. 別ウィンドウが開き、既定のインスタンス(MSSQLSERVER)への接続確認を要求されます。

キーボードから<Y>を入力し、続いて<Enter>キーを入力します。



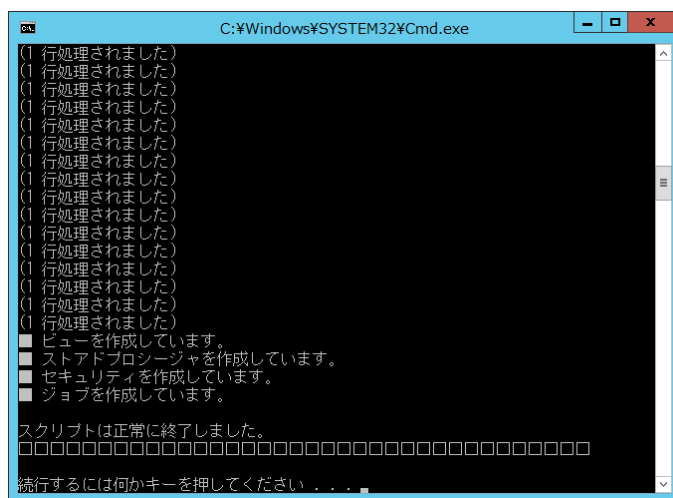
9. 項番 5 で指定したフォルダーが存在しない場合、作成されます。

キーボードから<Y>を入力し、続いて<Enter>キーを入力します。



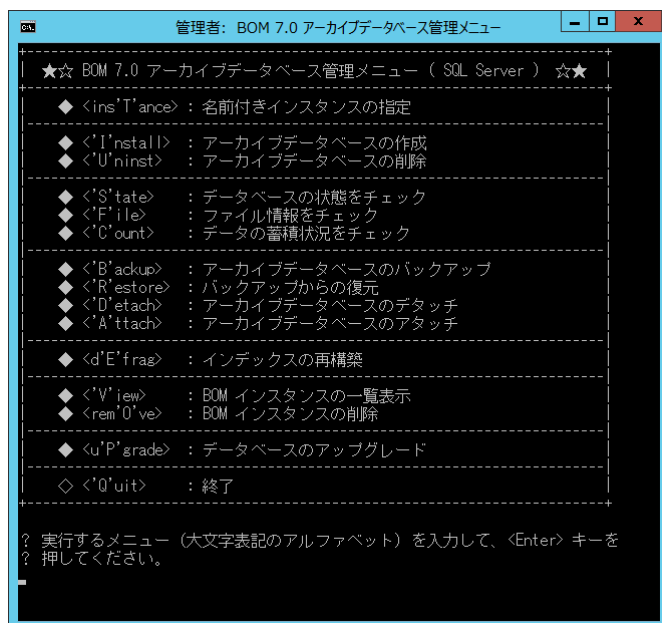
10. アーカイブデータベースが作成されます。

任意のキーを押下しメイン画面へ戻ります。



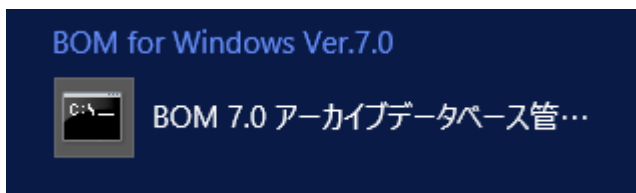
11. データベースの状態を確認します

キーボードから<S>を入力し、続いて<Enter>キーを押下します。



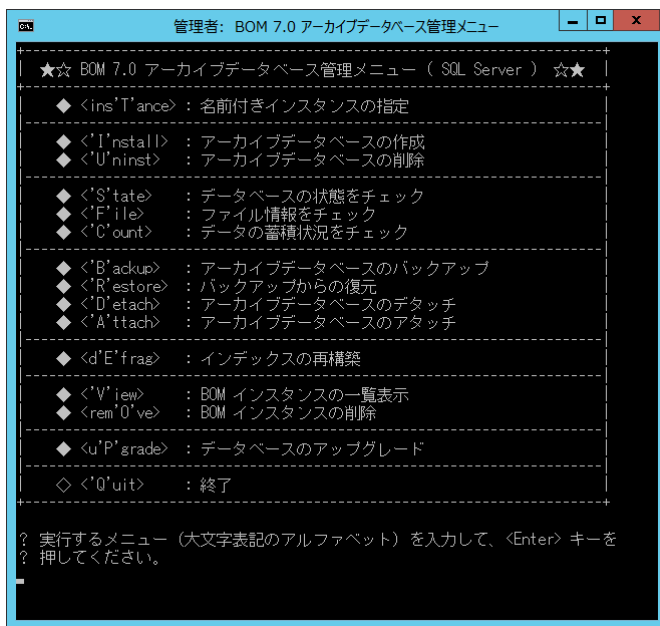
※ アーカイブデータベースの削除を実行すると、蓄積済みのデータがすべて削除されますのでご注意ください。

1. “スタート”メニューから“BOM 7.0 アーカイブデータベース管…”を選択します。

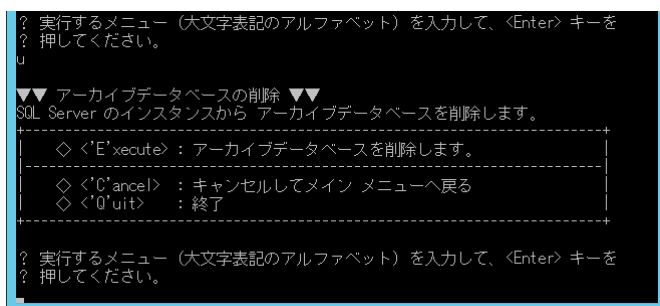


※ 画面面上に表示されているプログラム名称“BOM 7.0 アーカイブデータベース管…”は、OS により省略されている名称です。

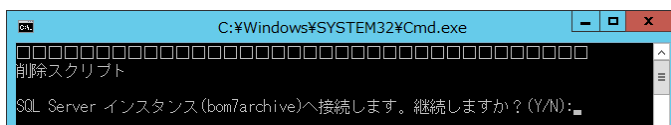
2. “BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニュー”が起動します。



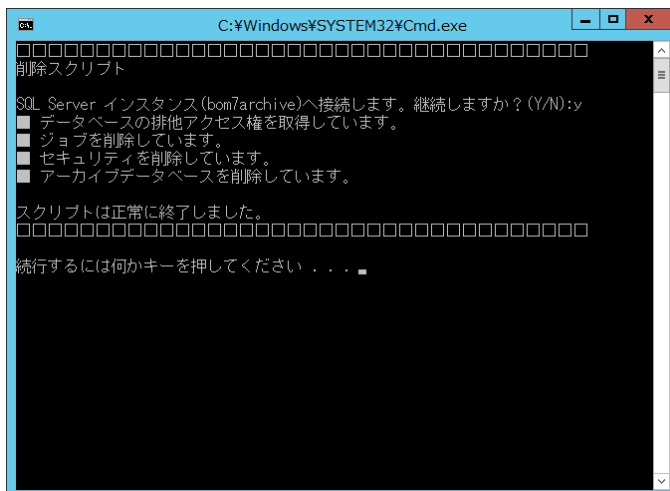
3. キーボードから<U>を入力し、続いて<Enter>キーを押下します。
4. “アーカイブデータベースの削除”メニューが表示されますので、キーボードから<E>を入力し、続いて<Enter>キーを押下します。



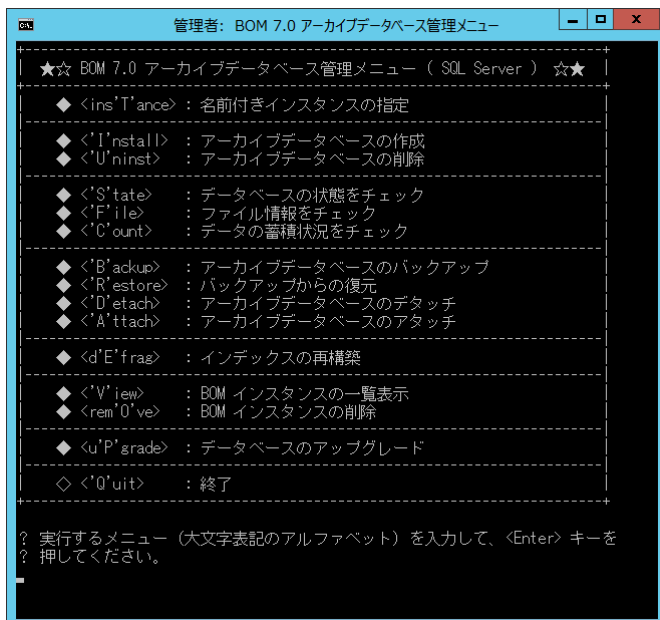
5. 削除の確認を要求されます。<Y>を入力し続いて<Enter>キーを押下します。



6. 削除が完了しました。任意のキーを押下し、メインウインドウに戻ります。



7. キーボードから<Q>を入力し、続いて<Enter>キーを押下し、BOM 7.0 アrchiveデータベース管理メニューを終了します。



以上でArchiveデータベースの削除は完了です。

2.2.6 トランザクションログとメンテナンスについて

- Archiveデータベースの新規構築時に作成されるトランザクションファイルの最大サイズは 10GB です。
- トランザクションファイルの上限変更設定や、データベースのメンテナンス方法に関しては、以下のサポート技術情報を参照してください。

[サポート情報番号:000259] BOM Archiveデータベース関連の技術情報について

<https://faq.say-tech.co.jp/bom-for-windows-ver-7-0/p542>

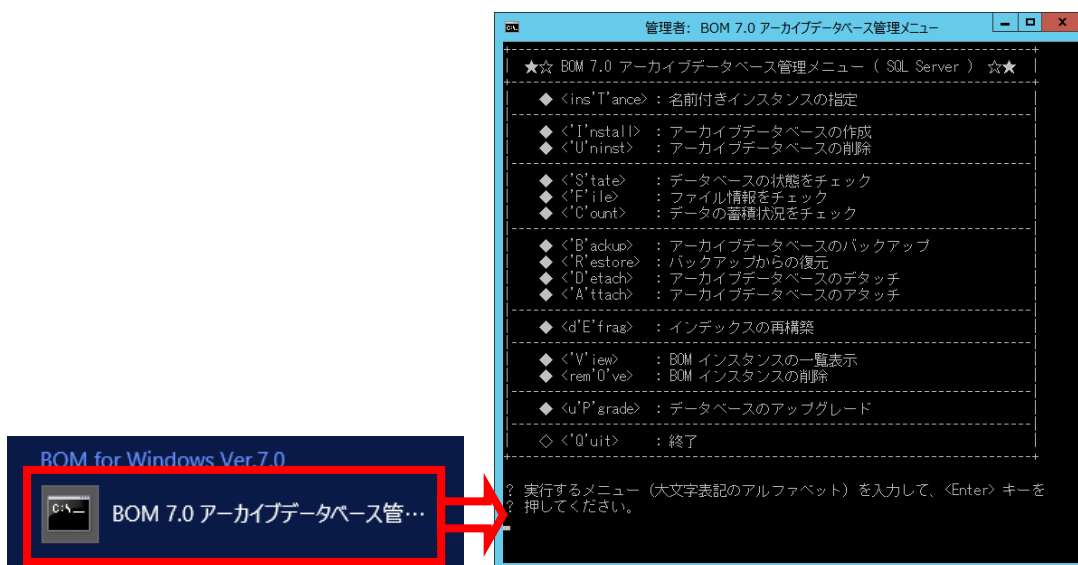
第3章 BOM アーカイブデータベース管理メニュー

3.1 BOM アーカイブデータベース管理メニューの使い方

3.1.1 BOM アーカイブデータベース管理メニューの概要

“BOM アーカイブデータベース管理メニュー”は専門的な知識がなくても、SQL Server で BOM 7.0 のログを蓄積するためのアーカイブデータベースを構築することができます。

BOM アーカイブデータベース管理メニューは、OS のスタートメニューから“すべてのアプリ”を選択したのちに表示される“BOM 7.0 アーカイブデータベース管理メニュー”より起動します。

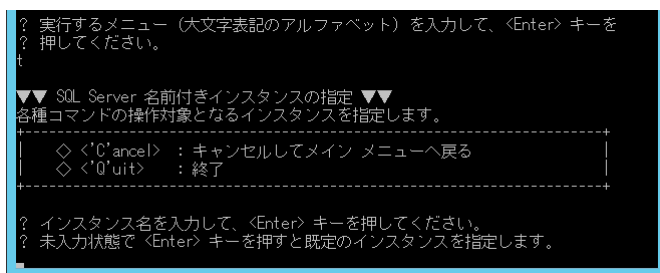


3.1.2 <Instance> : 名前付きインスタンスの指定

本メニューは下記に該当する場合、必ず作業 3. でインスタンスの入力が必要です。

- “名前付きインスタンス MSSQLSERVER” 以外を、アーカイブデータベースのインスタンスにしたい場合
- SQL Server Express Edition で、既定の設定で“名前付きインスタンス SQLEXPRESS”を作成した場合
- ※ 名前付きインスタンスのアーカイブデータベースに対してネットワーク越しにデータを蓄積する場合、SQL Server について以下の設定が必要です。
 - SQL Server をインストールする際に「SQL Server Browser サービス」が有効化されていない場合は、Windows 管理ツールの「サービス」から、本サービスを「自動・開始」に変更してください。
 - ファイアウォールが有効になっている場合、「SQL Server Browser サービス」が使用するポートおよび、名前付きインスタンスが使用する“sqlservr.exe”を受信規則に追加してください。

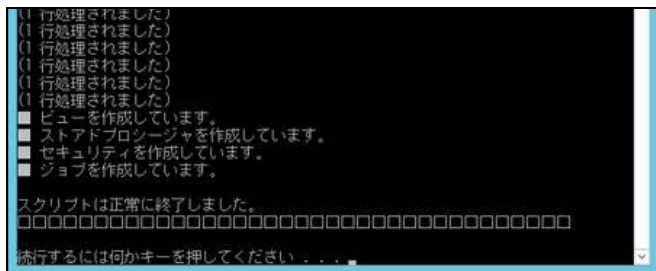
1. BOM アーカイブデータベース作成時の接続先の SQL Server のインスタンスの指定するために、<T>を入力し<Enter>キーを押下します。



2. 名前付きインスタンスを指定してアーカイブデータベースを作成する場合は接続する名前付きインスタンスを指定します。
 - 未入力で<Enter>キーを押下すると、BOM 7.0 は既定のインスタンス“MSSQLSERVER”を自動的に指定します。
3. 指定したインスタンスに接続できると、下記の画面になります。

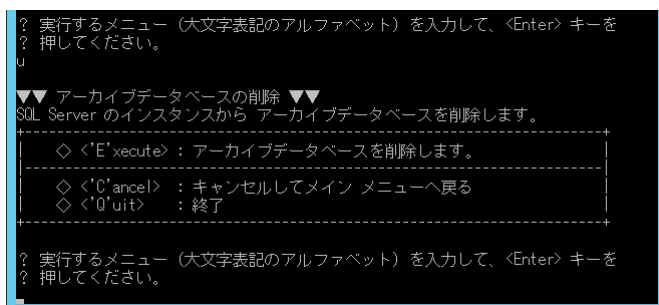


6. 下記の画面が表示されれば、BOM アーカイブデータベースが作成されました。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。

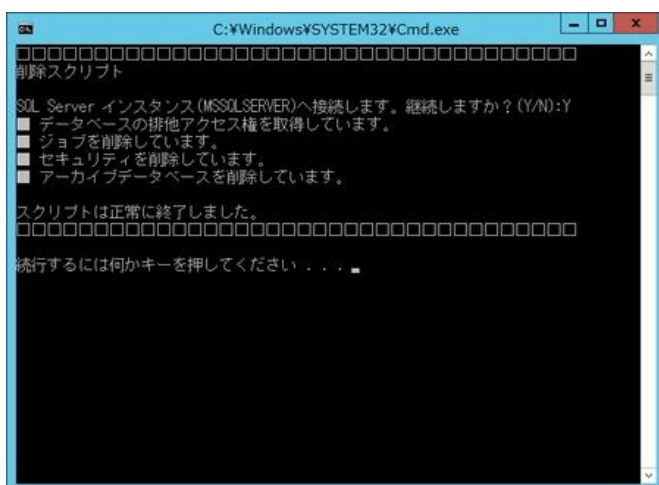


3.1.4 <'U'ninst> : BOM アーカイブデータベースの削除

1. BOM アーカイブデータベースを削除するために、<U>を入力、<Enter>キーを押下します。

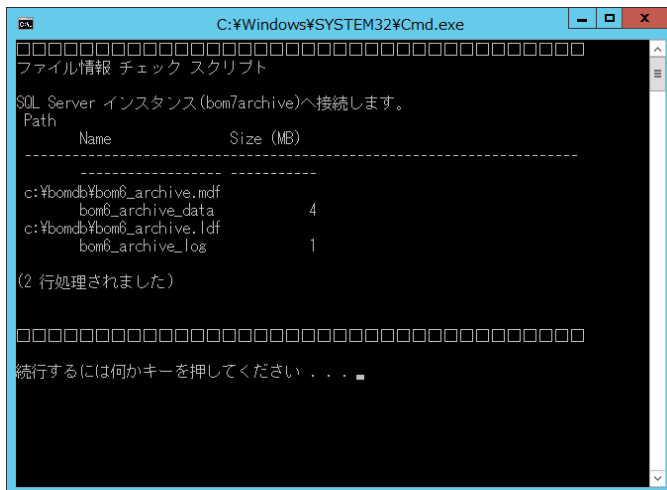


2. <E>を入力、<Enter>キーを押下します。
 3. 削除する SQL Server のインスタンス名が表示されます。継続するとアーカイブデータベースが削除されます。
 4. 下記の画面が表示されれば、BOM アーカイブデータベースが削除されました。何かキーを押下すると元のメニューに戻ります。



3.1.6 <'File> : ファイル情報をチェック

1. ファイル情報をチェックするには、<F>を入力、<Enter>キーを押下します。



```

C:\Windows\SYSTEM32\Cmd.exe
ファイル情報 チェック スクリプト

SQL Server インスタンス (bom7archive)へ接続します。
Path
  Name          Size (MB)
-----
c:\bomdb\bom6_archive.mdf
  bom6_archive_data      4
c:\bomdb\bom6_archive.ldf
  bom6_archive_log       1

(2 行処理されました)

続行するには何かキーを押してください . . .

```

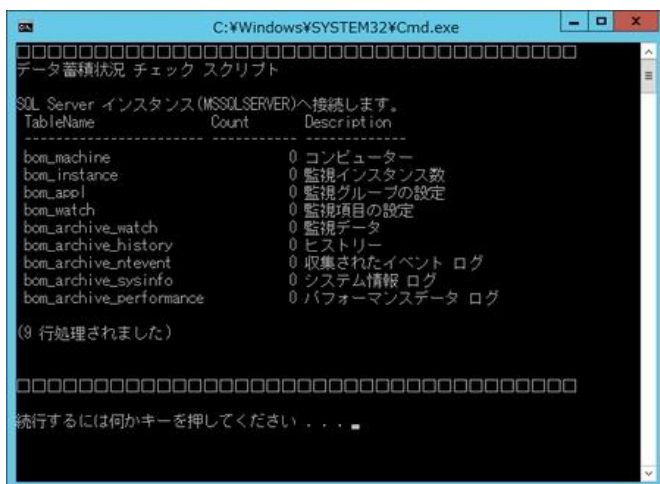
- ファイル情報 チェック スクリプトが実行されます。

2. アrchiveデータベースを作成したパス名とサイズ(MB)が表示されます。

3.1.7 <'C'ount> : データの蓄積状況をチェック

1. データの蓄積状況をチェックするには、<C>を入力、<Enter>キーを押下します。

- データ蓄積状況 チェック スクリプトが実行されます。
- この処理はサーバーの状態やデータの蓄積状況により、時間がかかる場合があります。



```

C:\Windows\SYSTEM32\Cmd.exe
データ蓄積状況 チェック スクリプト

SQL Server インスタンス (MSSQLSERVER)へ接続します。
TableName      Count      Description
-----
bom_machine    0          コンピューター
bom_instance   0          監視インスタンス数
bom_aso1       0          監視グループの設定
bom_watch      0          監視項目の設定
bom_archive_watch 0          監視データ
bom_archive_history 0          ヒストリー
bom_archive_ntevent 0          収集されたイベント ログ
bom_archive_sysinfo 0          システム情報 ログ
bom_archive_performance 0          パフォーマンスデータ ログ

(9 行処理されました)

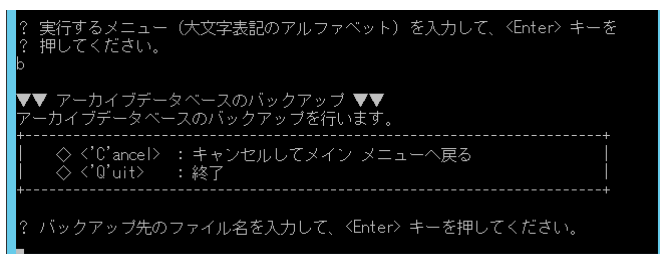
続行するには何かキーを押してください . . .

```

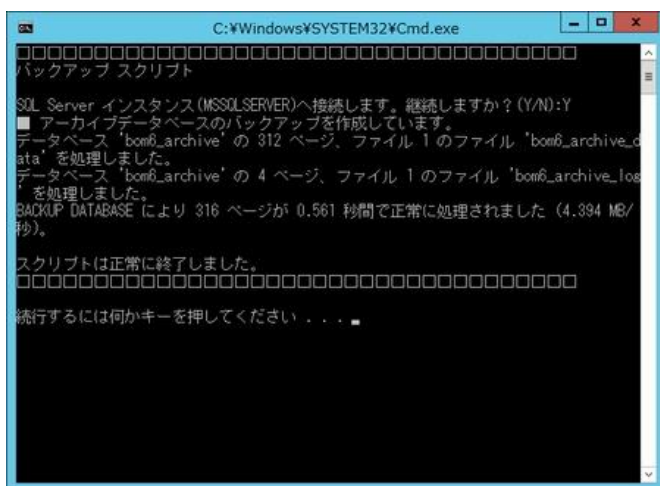
2. Archiveデータベースのテーブル名、レコード数、テーブルの解説がそれぞれ表示されます。

3.1.8 <'B'ackup> : データベースのバックアップ

1. アーカイブデータベースのバックアップを行うには、を入力、<Enter>キーを押下します。

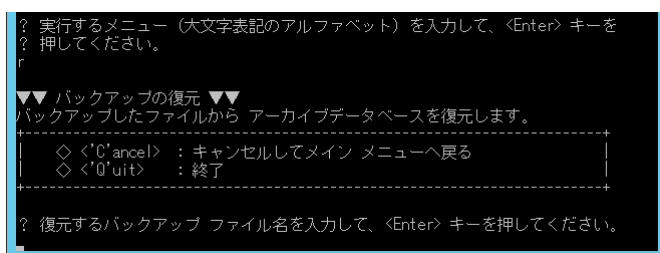


2. バックアップ先のファイルを作成するフォルダーを絶対パスで入力 (D:\YBAS Backup\Ybom_archive.bak など) し、<Enter>キーを押下します。
3. インスタンスへの接続確認画面で<Y>を入力、<Enter>キーを押下して、下記の画面が表示されればバックアップは正常に終了しました。



3.1.9 <'R'estore> : バックアップの復元

1. アーカイブデータベースのバックアップファイルの復元を行うには、<R>を入力、<Enter>キーを押下します。



2. 復元するバックアップファイルが存在するフォルダーを絶対パスで入力 (D:\YBAS Backup\Ybom_archive.bak など) し、<Enter>キーを押下します。

3. “インスタンス接続確認”画面で<Y>を入力、<Enter>キーを押下して、下記の画面が表示されればバックアップの復元は正常に終了しました。

```

C:\Windows\SYSTEM32\Cmd.exe
リストア スクリプト

SQL Server インスタンス (MSSQLSERVER)へ接続します。継続しますか？(Y/N):Y
■ アーカイブデータベースのバックアップを復元しています。
データベース 'bomb_archive' の 312 ページ、ファイル 1 のファイル 'bomb_archive_d
ata' を処理しました。
データベース 'bomb_archive' の 4 ページ、ファイル 1 のファイル 'bomb_archive_log
' を処理しました。
RESTORE DATABASE により 316 ページが 0.556 秒間で正常に処理されました (4.434 MB/
秒)。
■ セキュリティとジョブを再作成しています。

スクリプトは正常に終了しました。
続行するには何かキーを押してください . . .

```

3.1.10 <'D'etach> : データベースのデタッチ

1. BOM アーカイブデータベースのデタッチを行うには、<D>を入力し、<Enter>キーを押下します。

●<Enter>キーを押下すると、“デタッチ スクリプト”が実行されます。

```

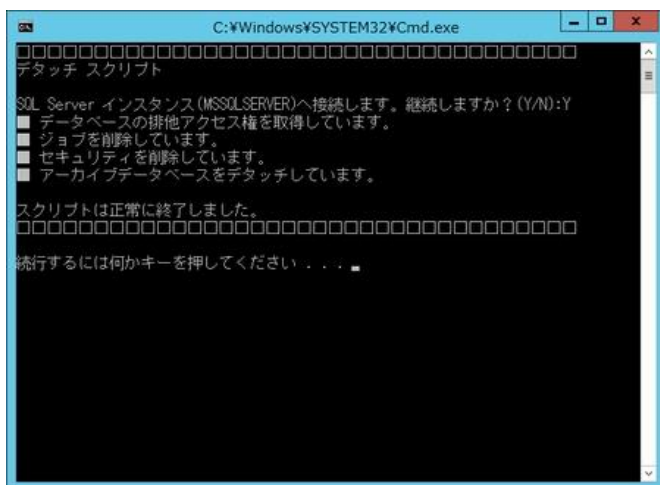
? 実行するメニュー (大文字表記のアルファベット) を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。
d

▼▼ アーカイブデータベースのデタッチ ▼▼
SQL Server から アーカイブデータベースを切り離します。
-----
◇ <'E'xecute> : データベースをデタッチします。
◇ <'C'ancel> : キャンセルしてメイン メニューへ戻る
◇ <'Q'uit> : 終了
-----
? 実行するメニュー (大文字表記のアルファベット) を入力して、<Enter> キーを
? 押してください。

```

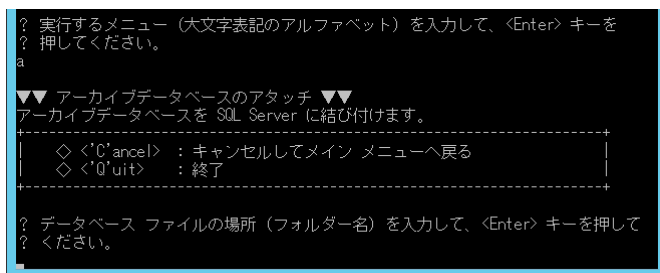
2. 下記の画面が表示されれば、データベースのデタッチが正常に終了しました。

●デタッチを行うと BOM アーカイブマネージャーからのアーカイブデータベースへの接続パスワードは、既定値の<Bom6Archive>(半角英数字)に戻りますのでご注意ください。



3.1.11 <'A'ttach> : データベースのアタッチ

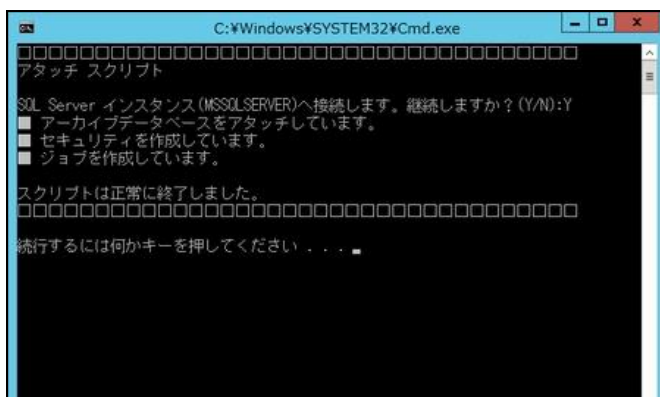
1. BOM アrchiveデータベースのアタッチを行うには、<A>を入力、<Enter>キーを押下します。



2. アタッチするデータベースファイルが存在するフォルダーを絶対パスで入力 (c:\¥bomdb など) し、<Enter>キーを押下します。
3. <Enter>キーを押下すると、“アタッチ スクリプト”が実行されます。
4. 下記の画面が表示されれば、データベースのアタッチが正常に終了しました。

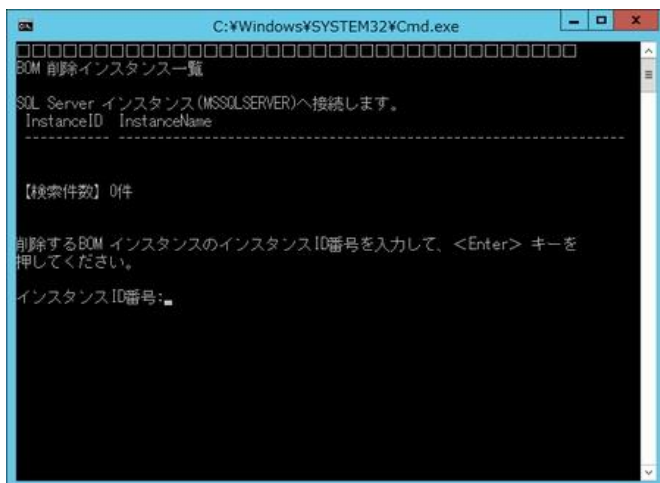
●アタッチを行うと BOM アrchiveマネージャーからのアーカイブデータベースへの接続パスワードは、既定値の<Bom6Archive>(半角英数字)に戻ります。

アタッチをして BOM アrchiveマネージャーからデータを参照する際にはご注意ください。



3.1.14 <rem'O've> : BOM インスタンスの削除

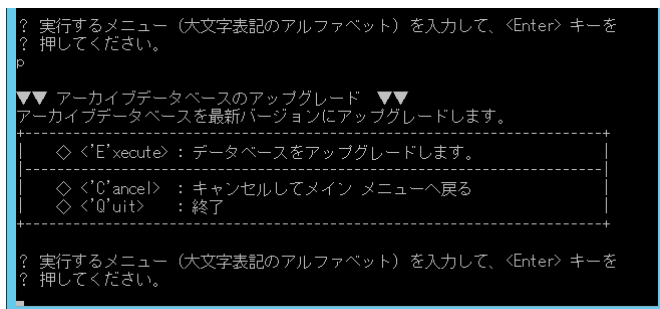
1. アーカイブデータベースに蓄積されているインスタンスのうち、統合・廃止などによって不要になったインスタンスをアーカイブデータベースから削除するには、<O>を入力し、<Enter>キーを押下します。



2. インスタンス一覧が表示され、削除対象のインスタンスを確認する画面が表示されるので、任意の ID を入力、<Enter>キーを押下すると、削除確認メッセージが表示されるので、<Y>を入力、<Enter>キーを押下します。
3. インスタンスの削除が実行され、削除データ件数が表示されます。

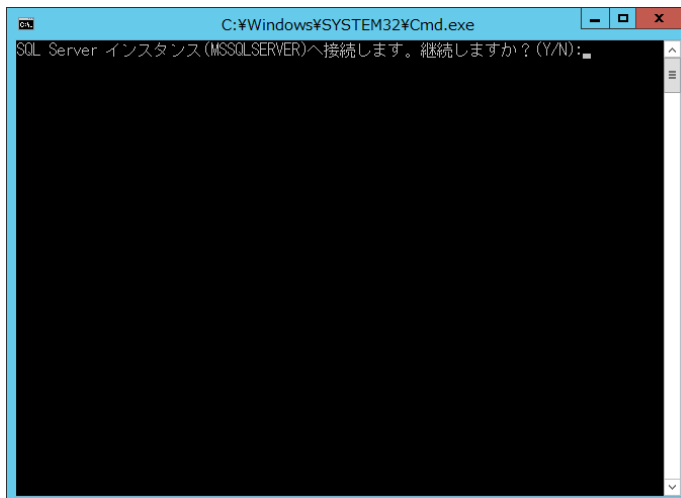
3.1.15 <u'P'grade>: データベースのアップグレード

1. アーカイブデータベースのバージョンを旧リリース版 (BOM 6.0 または、BOM 7.0 SR なし~SR3) から最新版へアップグレードするには、<P>を入力し、<Enter>キーを押下します。



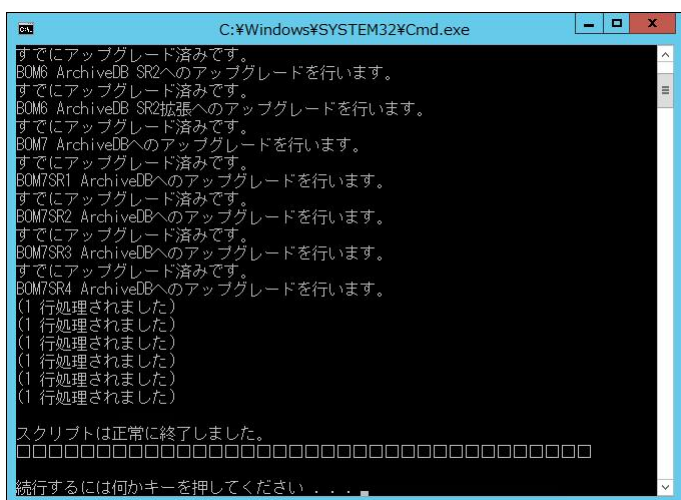
2. <E>を入力し、<Enter>キーを押下します。

3. SQL Server への接続要求が表示されますので<Y>を入力し、<Enter>キーを押下します。



4. 自動でアップグレード処理が起動しますので、スクリプト処理正常終了後、任意のキーを押下し終了します。

※ 表示内容はアップグレード元のバージョンにより異なります。



3.1.16 <'Q'uit> : 終了

1. サーバー管理メニューを終了するには<Q>を入力し、<Enter>キーを押下します。

3.1.17 UAC 環境での動作

1. アーカイブデータベース管理メニューは UAC 環境でも動作しますが、UAC 適用外の環境とは下記の挙動に差異があります。
- 画面の大きさが通常よりも小さい状態で起動します。(マウス操作で大きくすることができます)
 - 別画面がバックで起動しています。

第4章 アーカイブ対象コンピューターの設定

アーカイブ対象コンピューターには、“BOM 監視サービス”と“アーカイブサービス”をインストールする必要があります。

BOM 監視サービスとアーカイブサービスのインストール完了後、BOM 7.0 を起動してアーカイブ対象コンピューターに接続し、アーカイブに必要な設定を行います。

4.1 アーカイブサービスのインストール

BOM 7.0 の媒体よりインストールすることができます。

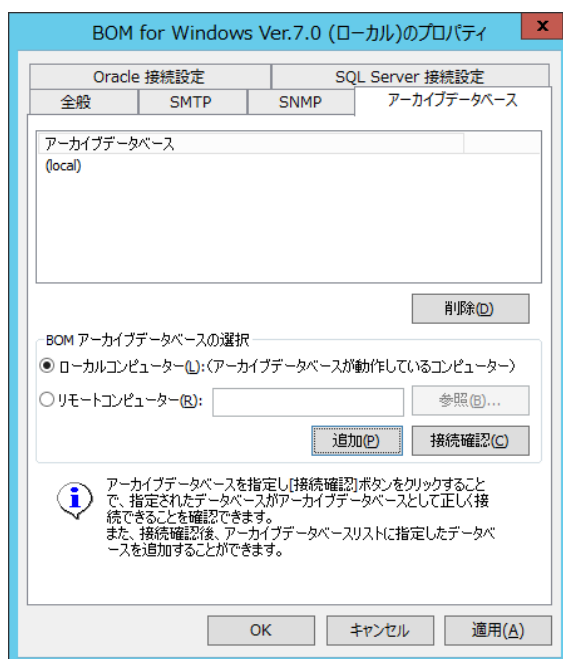
詳細は、「BOM for Windows Ver.7.0 インストールマニュアル」を参照ください。

4.2 アーカイブデータベース設定

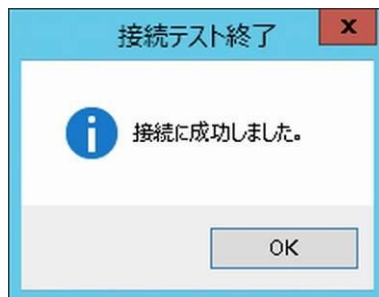
アーカイブ対象コンピューターに、アーカイブ先アーカイブデータベースの情報を設定します。

設定操作は、BOM マネージャーで行います。リモートコンピューターを BOM マネージャーで設定する場合、アーカイブ対象コンピューターとの間で TCP/IP による通信ができる必要があります。

1. BOM マネージャーを起動し、ローカルコンピューター（アーカイブ対象コンピューター）に接続します。
2. 監視および、アーカイブサービスが停止していることを確認してください。
 - 監視が起動している場合、BOM マネージャーで該当インスタンスを右クリックし、コンテキストメニューの“停止”をクリックします。
 - アーカイブサービスが“開始”している場合は、BOMコントロールパネルの「アーカイブサービス」タブで、該当するサービスを停止します。
3. “BOM for Windows Ver.7.0（ローカル）”のプロパティを開き、「アーカイブデータベース」タブを表示します。
 - アーカイブサービスがインストールされていない場合、「アーカイブデータベース」タブは表示されません。



4. “BOM 7.0 アーカイブデータベースの選択”フィールドでは、アーカイブデータベースを指定します。
 - アーカイブデータベースがローカルコンピューター上に存在する場合
“ローカルコンピューター”ラジオボタンを選択します。
 - アーカイブデータベースがリモートコンピューター上に存在する場合
“リモートコンピューター”ラジオボタンを選択します。“コンピューター”フィールドには、[参照]ボタンをクリックし、ダイアログ上から該当するコンピューターを選択するか、“コンピューター名”、“IP アドレス”を直接入力することができます。
5. [接続確認]ボタンをクリックして事前にアーカイブデータベースと接続できるか確認し、問題がなければ [追加]ボタンをクリックしてアーカイブデータベースのリストに追加してください。
 - [接続確認]ボタンをクリックした際に接続が成功しない場合、アーカイブデータベースを‘3 .1 .2 <Instance> : 名前付きインスタンスの指定’の名前付きインスタンスで作成した場合が想定されます。その際には、手順 4.の“コンピューター”フィールドに、“コンピューター名¥インスタンス名”を指定してみてください。
 - [参照]ボタンはクリックしてもコンピューター名を参照するものであり、上記の名前付きインスタンスは表示されません。

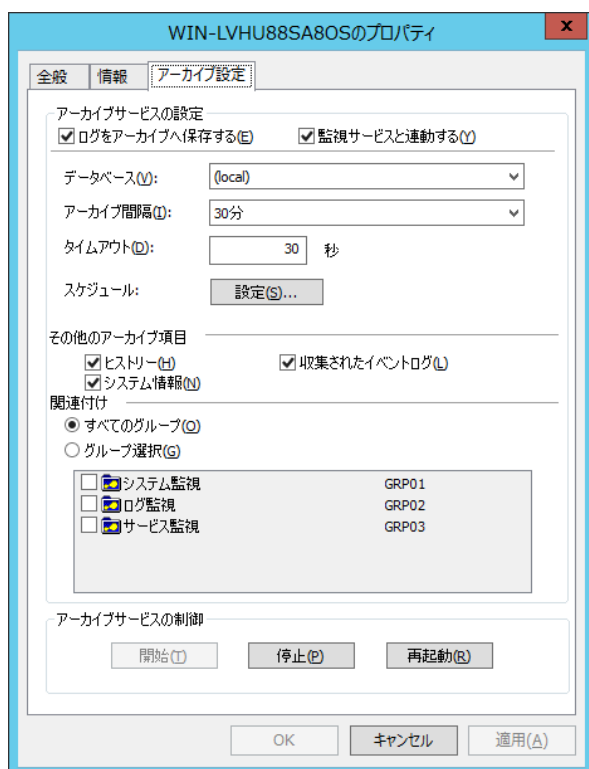


4.3 アーカイブ設定

アーカイブ設定はインスタンスごとに行います。BOM マネージャーのインスタンスのプロパティで「アーカイブ設定」タブを表示します。「プロパティ」画面において、設定可能な項目は下記のとおりです。

- アーカイブ機能が利用できるインスタンスは、Windows インスタンス、Linux インスタンス、VMware インスタンスの3種類です。
- ログの蓄積先を“ファイル出力”にする際で、リモート接続したリモートコンピューターの設定で“ファイル出力..”を行う場合には、リモートコンピューターの BOM 7.0 もレポート対応の BOM 7.0 にアップグレードしてから実行してください。
- BOM マネージャーは、TCP/IP プロトコルを利用してアーカイブデータベースに接続しますが、SQL Server Express Edition の場合、TCP/IP プロトコルは“無効”の状態ではインストールされるため、設定を変更しなければ接続できません。

詳細は‘第 8 章 SQL Server Express Edition へのインストールについて’を参照ください。



1. “ログをアーカイブへ保存する”
チェックボックスにチェックを入れることで、BOM アーカイブサービスがログをアーカイブするようになります。
2. “監視サービスと連動する”
チェックボックスにチェックを入れることで、監視サービスの起動・停止と連動して、BOM アーカイブサービスが起動・停止するようになります。
3. “データベース”
● ‘4.2 アーカイブデータベース設定’で登録したアーカイブデータベースを選択した場合
選択したアーカイブデータベースにログを蓄積します。

- “ファイル出力..”を選択した場合
ファイル出力するフォルダー選択の画面になり、保存フォルダーを指定することで、直接アーカイブデータベースヘデータを蓄積せず、CSV 形式でデータ保存します。このデータは CSV ファイルインポーターツールでアーカイブデータベースへインポートすることができます。
4. “アーカイブ間隔”
アーカイブを行う間隔をプルダウンリストから選択します。
 5. “タイムアウト”
アーカイブデータベースのデータ蓄積に時間が掛かる場合、タイムアウトに指定した期間を超過した場合には通信を遮断します。
 - タイムアウト値に“0”を指定した場合には、タイムアウト機能が無効になります。
 6. “スケジュール”
監視データをアーカイブする時間帯や曜日を細かく指定する場合にチェックを入れ、設定を行います。
 7. “その他のアーカイブ項目”
監視データ以外にも、ヒストリーログ、収集されたイベントログ、システム情報をアーカイブしたい場合に、“ヒストリー”チェックボックス、“収集されたイベントログ”チェックボックスまたは、“システム情報”チェックボックスにチェックを入れます。
BOM VMware オプションのみ、“VM ログビューアーデータ”チェックボックスが表示されます。VM ログビューアーのパフォーマンスデータをアーカイブしたい場合に、“VM ログビューアーデータ”チェックボックスにチェックを入れます。
 8. “関連付け”
アーカイブ対象とする監視グループを、どの“監視グループ”に対して適用するかを下記のどちらかより選択します。
 - “すべてのグループ”ラジオボタンを選択した場合
すべての“監視グループ”をアーカイブの対象とします。
 - “グループを選択”ラジオボタンを選択した場合
“グループ選択”フィールドに表示された“監視グループ”の各チェックボックスにチェックを入れることで、該当する“監視グループ”をアーカイブの対象とします。
 - アーカイブ保存間隔・詳細スケジュールを変更する場合
保存の間隔、詳細スケジュールを変更する場合は、“アーカイブサービスの制御”で“停止”をクリックしてから変更し、再び“開始”をクリックしてください。

第5章 アーカイブデータベースへのデータ転送

アーカイブデータベースへのデータ転送方法は2通りあります。アーカイブサービスによる直接アーカイブデータベースへのデータ転送方法と、ファイル出力した後にツールによりアーカイブデータベースへデータインポートする方法です

A. アーカイブデータベースと各監視対象コンピューターがネットワークで接続されている場合。

アーカイブサービスによって直接アーカイブデータベースへデータ転送します。

B. 監視対象コンピューターとアーカイブデータベースがネットワークで接続されていない場合。

アーカイブサービスによる蓄積を行った後に出力したファイルをなんらかの方法で移動し、ツールによってアーカイブデータベースへデータインポートします。

5.1 アーカイブサービスによるデータ転送

アーカイブデータベースの登録、監視データや各種ログのアーカイブ設定が完了後、アーカイブサービスを開始します。

アーカイブサービスの起動時、アーカイブデータベースの MSSQLSERVER サービス SQL ServerAGENT サービスが起動していません。

- BOM コントロールパネル→「アーカイブサービス」タブ→アーカイブサービスの一覧からアーカイブサービスを選択し、起動します。アーカイブサービスが開始されると、アーカイブデータベースへデータ転送されます。
- アーカイブサービスはインスタンスごとに作成されます。アーカイブサービス名は BOM7Archive\$<インスタンス名>です。

5.2 ツール(BomCsvImporter.exe)によるデータインポート

監視対象コンピューターとアーカイブデータベースがネットワークで接続されていない場合に使用します。

- 本ツールによるアーカイブデータベースへのデータ転送は、「4.3 アーカイブ設定」の「アーカイブデータベース」の設定で、アーカイブデータがファイルに出力されている必要があります。
- BomCsvImporter.exe の詳細な使用方法については、ヘルプオプション“-h”を指定し、コマンドラインヘルプを参照ください。

<BOM 7.0 インストールフォルダー>¥BOMW7¥Bin フォルダー以下で

```
BomCsvImporter.exe -h
```

A. 準備

1. データインポートするために、監視対象コンピューターとは別のアーカイブデータベースとネットワーク接続したコンピューター（アーカイブデータベースでも可）が必要です。
 - BOM 7.0 のアーカイブサービスがインストールされている必要があります。

B. インポート方法

1. アーカイブサービスを起動し、指定したフォルダーに監視データをファイル出力します。
2. アーカイブサービスを停止します。
3. 指定したフォルダーの zip ファイルをネットワーク接続されているコンピューター上になんらかの方法で移動します。
この際、必要に応じて移動元のフォルダー内の zip ファイルは消去します。
4. 移動したファイルを、'A.準備'で用意したコンピューターの適当なフォルダーに保存します。
5. 'A.準備'で用意したコンピューターより、アーカイブサービスを導入したアーカイブデータベースにデータインポートを行います。

● アーカイブサービスを導入したアーカイブデータベースで行う場合

コマンドプロンプトより、下記の構文で実行します。

<BOM 7.0 インストールフォルダー>%BOMW7%Bin フォルダー以下で

BomCsvImporter.exe -d:<zip ファイル格納フォルダー> -e

例:

BomCsvImporter.exe -d:C:%ArcZip -e

● アーカイブデータベースとネットワーク接続されている別のコンピューター（アーカイブサービスが導入済み）で行う場合、コマンドプロンプトより、下記の構文で実行します。

<BOM 7.0 インストールフォルダー>%BOMW7%Bin フォルダー以下で

BomCsvImporter.exe -m:<アーカイブデータベース名> -d:<zip ファイル格納フォルダー> -e

例:

BomCsvImporter.exe -m:BOM7-ARCHIVE -d:C:%ArcZip -e

● アーカイブデータベースを名前付きインスタンスに構築している場合

アーカイブデータベースとインスタンス名をセットで指定するため、コマンドプロンプトより下記の構文で実行します。

<BOM 7.0 インストールフォルダー>%BOMW7%Bin フォルダー以下で

BomCsvImporter.exe -m:<アーカイブデータベース名>%<インスタンス名> -d:<zip ファイル格納フォルダー> -e

例:

BomCsvImporter.exe -m:BOM7-ARCHIVE%SQLEXPRESS -d:C:%ArcZip -e

第6章 BOM アーカイブマネージャー

BOM アーカイブマネージャーは、アーカイブデータベースに保存されているアーカイブ対象コンピューターの監視データを参照するための MMC スナップインです。

アーカイブサービスおよび BOM アーカイブマネージャーと、アーカイブデータベース間の通信には、SQL Server によるクライアントサーバーの仕組みがそのまま使用されます。使用できる通信プロトコルは、TCP/IP のみとなります。

6.1 BOM アーカイブマネージャーのインストール

“BOM アーカイブマネージャー”は、BOM 7.0 の媒体よりインストールすることができます。

詳細は、‘BOM for Windows Ver.7.0 インストールマニュアル’を参照ください。

※ BOM アーカイブマネージャーをインストールする際の前提条件について、上記インストールマニュアルの‘第 2 章 インストール前の事前確認’に必要な情報が記載されていますので、必ずご確認ください。

6.2 BOM アーカイブマネージャーの起動と終了

BOM アーカイブマネージャーの起動/終了と、アーカイブデータベースへの接続手順について解説します。

A. BOM アーカイブマネージャーの接続対象

既定値の状態では 1 度に 1 つのアーカイブデータベースに接続できます。

別のアーカイブデータベースへの接続変更を行うと、接続中のアーカイブデータベースとの接続は切断されます。

B. BOM アーカイブマネージャーの反映タイミング

BOM マネージャーで設定削除した項目は、アーカイブデータベースに反映されますが、反映されるタイミングは、アーカイブサービス起動時とアーカイブのタイミングごとになります。

C. BOM アーカイブマネージャーからアーカイブデータベースへの接続エラーが発生する主な原因

アーカイブデータベースへの接続時にエラーが発生する場合、下記のような原因が考えられます。

- 接続パスワードが間違っている場合

アーカイブデータベースの接続パスワードは、アーカイブデータベースごとに保存されるので、正しいパスワードを入力してください。

- “サーバー“サーバー名”への接続に失敗しました。SQL Server の稼働を確認し、再試行してください。”と表示された場合 SQL Server が停止しているか、ネットワークが繋がっていない可能性があります。

SQL Server サービスが起動しているか確認し、ネットワーク接続も確認してください。

- アーカイブデータベースを‘3 .1 .2 <Instance> : 名前付きインスタンスの指定’の名前付きインスタンスで作成した場合が想定されます。その際には、“サーバー”フィールドに、“アーカイブデータベース名¥インスタンス名”を指定してみてください。

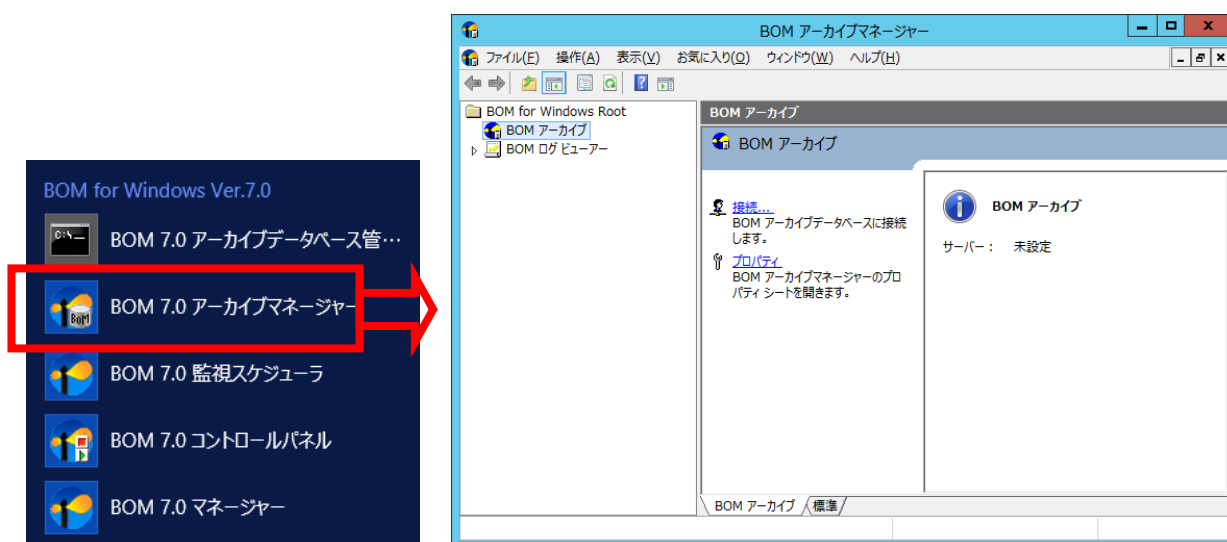
- SQL Server の TCP/IP プロトコルが“無効”の場合

BOM アーカイブマネージャーは、TCP/IP プロトコルを利用してアーカイブデータベースに接続しますが、SQL Server Express Edition の場合、TCP/IP プロトコルは“無効”の状態インストールされるため、設定を変更しなければ接続できません。詳細は‘第 8 章 SQL Server Express Edition へのインストールについて’を参照ください。

D. BOM アーカイブマネージャーの起動終了と、データベースの接続手順

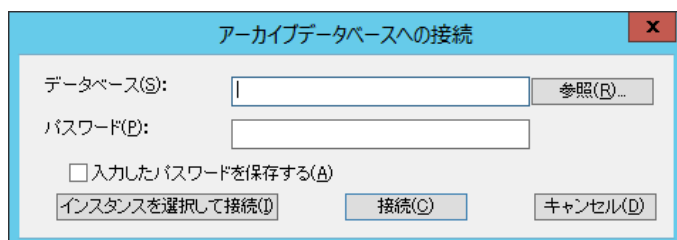
1. OS のスタート画面で右クリックし、“すべてのアプリ”を選択したのちに表示される“BOM 7.0 アーカイブマネージャー”をクリックします。

- BOM アーカイブマネージャーの起動には、管理者権限が必要です。



2. BOM アーカイブマネージャーのリザルトペインに表示されている“接続...”をクリックします。
3. “アーカイブデータベースへの接続”画面が表示されますので、アーカイブデータベースの対象“データベース”と“パスワード”を入力し、[インスタンスを選択して接続]ボタンまたは[接続]ボタンをクリックします。

[接続]ボタンをクリックした場合はすべてのインスタンスが表示され、[インスタンスを選択して接続]ボタンをクリックすると、BOM アーカイブマネージャーで表示するインスタンスを選択することが出来ます。



- “データベース”

アーカイブデータベースの“コンピューター名”もしくは、“IP アドレス”を入力します。

[参照]ボタンをクリックすることで選択することも可能です。

アーカイブデータベースを‘3 .1 .2 <Instance> : 名前付きインスタンスの指定’の名前付きインスタンスで作成した場合には、“サーバー”フィールドに、“アーカイブデータベース名¥インスタンス名”を入力します。

- “パスワード”

パスワードは既定値では“Bom6Archive”（半角英数字）です。（大文字小文字も正確に入力ください。）

接続パスワードは、アーカイブデータベースごとに保存されます。

- “入力したパスワードを保存する”

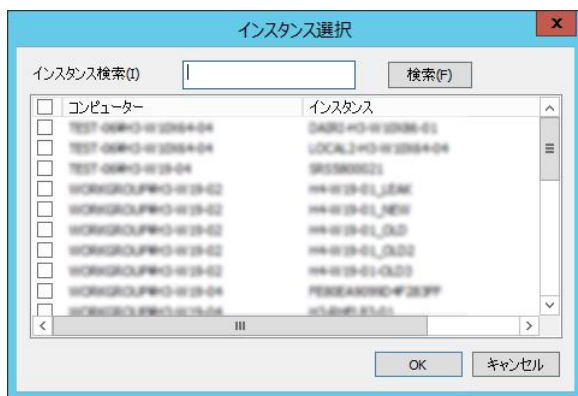
接続先“サーバー”、“パスワード”の設定を保存することができますが、厳密には BOM アーカイブマネージャーの終了時に、“MMC のマネージャーの設定を BOM Archive Manager.msc に保存しますか？”というメッセージで[はい]ボタンをクリックしないと保存はされませんのでご注意ください。

詳細は、‘6.7.2 パスワード変更’を参照ください。

- インスタンスを選択して接続

[インスタンスを選択して接続]ボタンをクリックすると以下の画面でアーカイブデータベースにアーカイブされたインスタンスが一覧表示されます。また“インスタンス検索”に任意の文字列を入力して[検索]ボタンをクリックすることで、検索文字列に一致するインスタンスまでリストを移動させることが出来ます。

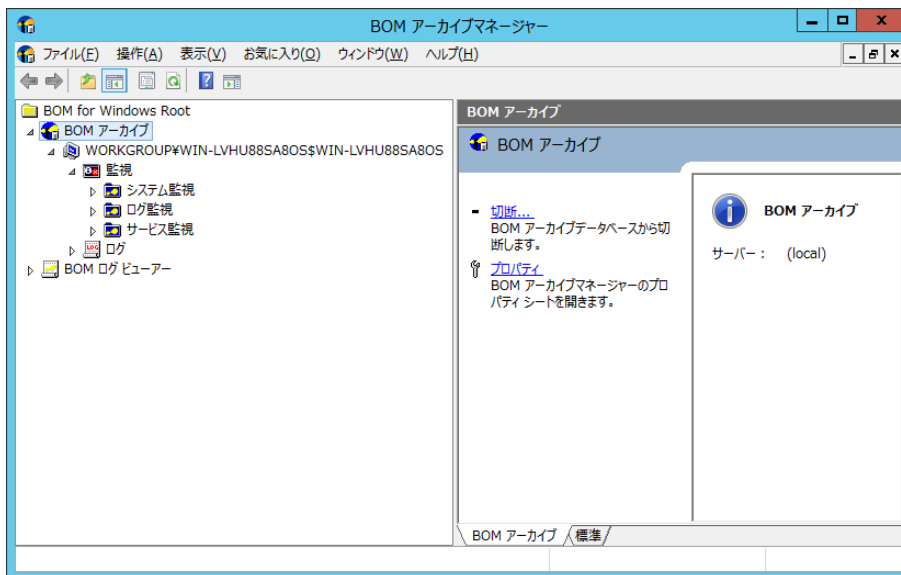
任意のインスタンスをチェックボックスで選択して[OK]ボタンをクリックすると、選択されたインスタンスのみを BOM アーカイブマネージャーで表示します。



- 接続

アーカイブデータベースに接続し、アーカイブされたすべてのインスタンスのデータを表示します。

4. アーカイブデータベースに接続できると、リザルトペインに接続しているアーカイブデータベースが表示されます。

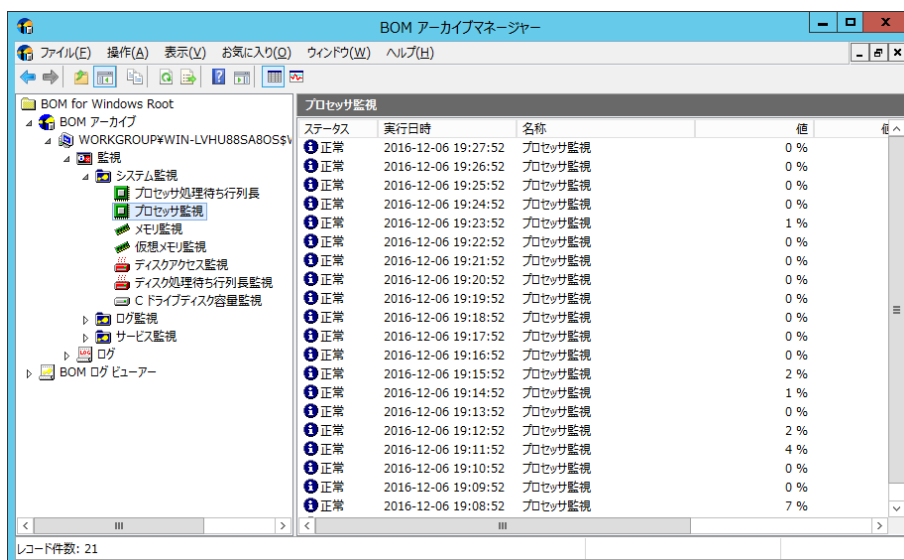


5. BOM アーカイブマネージャーを終了する場合、BOM アーカイブマネージャーでメニューバーの“ファイル”→“終了”をクリックするか、画面右上の×をクリックします。
6. 手順 5.の操作後、“Microsoft Management Console”画面が表示されるので、初めて BOM アーカイブマネージャーを使用した場合で、終了時に接続しているアーカイブデータベースに次回も接続する場合には、[はい]ボタンをクリックします。
- 初回以降に BOM アーカイブマネージャーの設定を変更した場合、次回も同じ状態で BOM アーカイブマネージャーを表示させるためには[はい]ボタンをクリックします。特に状態の保存が必要な場合は、[いいえ]ボタンをクリックすることで終了させることができます。
 - [キャンセル]ボタンをクリックすると、BOM アーカイブマネージャーを終了せず、直前の状態に戻ります。



6.3 BOM アーカイブマネージャーの表示

BOM アーカイブマネージャーの画面は、スコープペインとリザルトペインの2つの部分で構成されています。スコープペインに表示されるものを“ノード”といい、リザルトペインには“ノード”のもつ情報を表示します。



アーカイブデータベースに接続していないと、“BOM アーカイブ”ノードには、下位ノードがない状態になり、リザルトペインにはアーカイブデータベースに接続していないことを示すエラーマークが表示されます。

A. スコープペイン

アーカイブ対象コンピューターを持つアーカイブデータベースに接続するとスコープペインには、後述の下位ノードが表示されます。

- スコープペインの“BOM アーカイブ”ノード直下には、1.の“アーカイブ対象コンピューター”ノードがリスト表示されます。
- それぞれの1.“アーカイブ対象コンピューター”ノードには、2.～7.の下位ノードがツリー状に存在します。

1. “アーカイブ対象コンピューター”ノード

ワークグループ名(またはドメイン名)にコンピューター名とインスタンス名を付加した名前が表示されます。

例:

ワークグループ名 WORKGROUP

コンピューター名 KENSYU12

インスタンス名 SAYTECH1

ノード名 WORKGROUPYKENSYU12\$SAYTECH1

2. “監視”ノード

監視グループを表示します。

3. “監視グループ”ノード

アーカイブ対象コンピューターのすべての監視グループを表示します。

4. “監視項目”ノード

上位監視グループに所属する監視項目が表示されます。

“BOM ログビューアー”下の“データ系列セット”ノードと“データ系列セット(グラフ)”ノードにコピーしてデータを表示できます。

5. “ログ”ノード

アーカイブ対象コンピューターノードごとに必ず存在するノードです。

6. “履歴”ノード

アーカイブ対象コンピューターノードごとに必ず存在するノードです。BOM マネージャーの“履歴”ノードのデータが表示されます。

7. “収集されたイベントログ”ノード

アーカイブ対象コンピューターノードごとに必ず存在するノードです。

アーカイブ対象コンピューターの収集されたイベントログが存在すれば、このノードの配下に存在する各イベントログが個別にノード表示されます。

各イベントログノードはノード下の“データ系列セット”ノードにコピーしてデータ表示できます。

- スコープペインの“BOM ログビューアー”ノード下は、アーカイブデータをリザルトペインに表示する場合に使用します。

ユーザーが“データ系列セット”ノードと“データ系列セット(グラフ)”ノードを作成することができます。


“データ系列セット”ノードと“データ系列セット(グラフ)”ノードの下に、データを表示したい“アーカイブ対象コンピューター”ノード下の“監視項目”ノードをコピー & ペーストすると、リザルトペインにアーカイブされているデータを表示します

- “監視グループ”ノードを“BOM ログビューアー”ノード下にコピーすることはできません。
- データ表示の方法については、‘6.7 BOM ログビューアー’を参照ください。

B. リザルトペイン

リザルトペインには、スコープペインで選択したノードの、詳細や結果が表示されます。

- スコープペインで“インスタンス名”ノードを選択した場合

の横にインスタンス名、その下に“コンピューター名”、“フルコンピューター名”、“インスタンス名”、“製品名”、“データベース側アーカイブ設定”が表示されます。

- “BOM アーカイブ”ノード下に位置する“監視グループ”ノード、“監視項目”ノードを選択した場合

“マシン ID”、“監視グループ ID”、“監視項目 ID”等を表示し、さらに“BOM ログビューアー”下に位置するノードを選択したときは、ログデータのリストやグラフが表示されます。

- 監視グループや監視項目の設定内容は、BOM アーカイブマネージャーでは参照できないため、BOM マネージャーを使用してください。

1. “ログ”ノードの“収集されたイベントログ”の各イベントログのステータスアイコンとステータスの関係は下記の通りです。

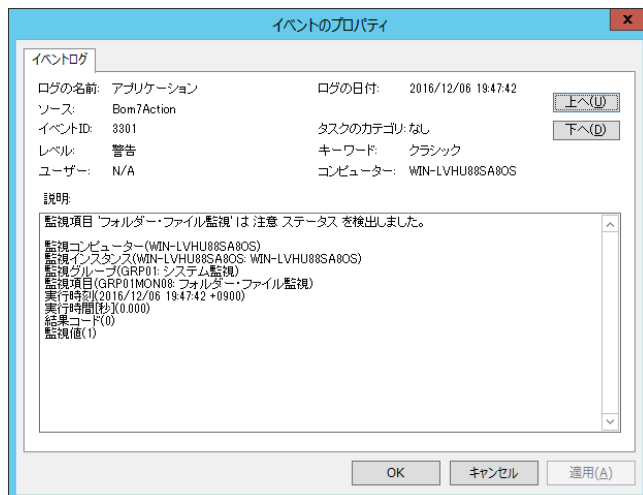
- このアイコンとステータスの関係は全インスタンスに共通です

- BOM マネージャーではインスタンスの OS にアイコンが依存しましたが、BOM アーカイブマネージャーは依存しません。

| | | | |
|---|--------|---|----------|
|  | 重大(L) |  | 詳細(B) |
|  | エラー(E) |  | 成功の監査(S) |
|  | 警告(W) |  | 失敗の監査(F) |
|  | 情報(I) | | |

2. “ログ”ノードの“収集されたイベントログ”の各イベントログのプロパティは下記の通りです。

- 本プロパティは全インスタンスに共通です。
- 上記 1.と同様に、インスタンスの OS に依存しませんので、ご注意ください。



6.4 アrchiveデータベースの各監視データやログデータの自動削除

Archiveデータベースに保存されたArchive対象コンピューターの各監視データやログデータは、古くなったデータから自動的に削除することができます。

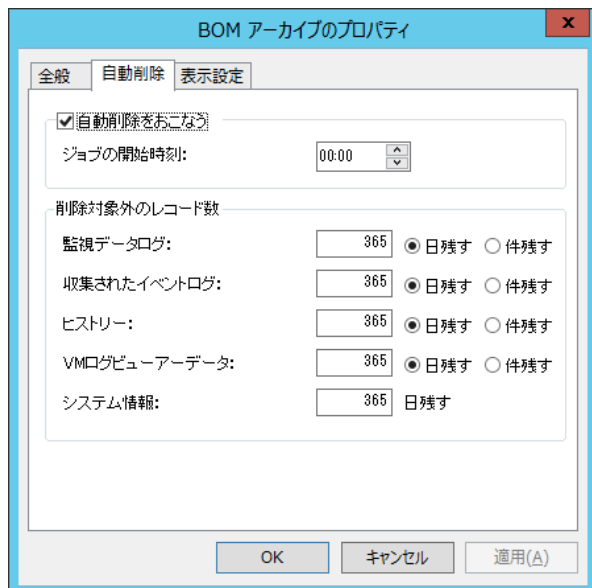
- 自動削除の設定は、Archiveデータベースに保存しているすべての BOM Archiveデータに対する設定です。設定情報はArchiveデータベースに保存しています。
- 既定値では、それぞれ 365 日経過したデータを毎日 0 時 0 分に SQL ジョブによって自動削除されるように設定されています。
- BOM ArchiveマネージャーでArchiveデータベースに接続し、保存件数の変更や保存日数による削除への変更、自動削除の無効化が指定できます。

A. BOM 6.0 で設定した自動削除を BOM 7.0 で閲覧、設定する際の注意点

- ※ BOM 6.0 で自動削除の項目「監視データログ」を“xx 件残す”で指定している場合、BOM 7.0 の自動削除の「システム情報」は“365 日残す”で表示されます。しかし、このシステム情報の“365 日残す”の DB への反映は、BOM 7.0 の自動削除で[適用]ボタン、または[OK]ボタンが押されるまで反映されません。
- ※ BOM 7.0 で設定した新項目“VM ログビューアーデータ”、“システム情報”は BOM 6.0 では表示されません。BOM 6.0 の自動削除で[適用]ボタン、[OK]ボタンを押した場合、“監視データログ”の設定が2つの新項目に上書きされます。

1. BOM Archiveマネージャーを起動し、Archiveデータベースに接続します。

2. スコープペインの“BOM アーカイブ”を右クリックし、コンテキストメニューの“プロパティ”→「自動削除」タブをクリックします。



3. “アーカイブデータベースのプロパティ”画面で、保存データの自動削除設定を行うことができます。

- “自動削除を行う”チェックボックス

“自動削除を行う”チェックボックスにチェックを入れると、毎日 1 回指定された時刻に自動削除の SQL ジョブを開始します。

- “ジョブの開始時刻”フィールド

自動削除の“開始時刻”をアーカイブ対象のログごとに、削除対象外とするデータの数と単位(日/件数)を指定します。選択したラジオボタンによって入力できる上限があります。

- “日残す”ラジオボタン

保存期間が指定日数を超えたログを削除します。

“日残す”ラジオボタンを選択していた場合は入力ボックスには“0”～“9999”の整数を入力できます。

- “件残す”ラジオボタン

指定件数分のデータを超えたログを削除します。

“件残す”ラジオボタンを選択していた場合は入力ボックスには“0”～“999999999”の整数を入力できます。

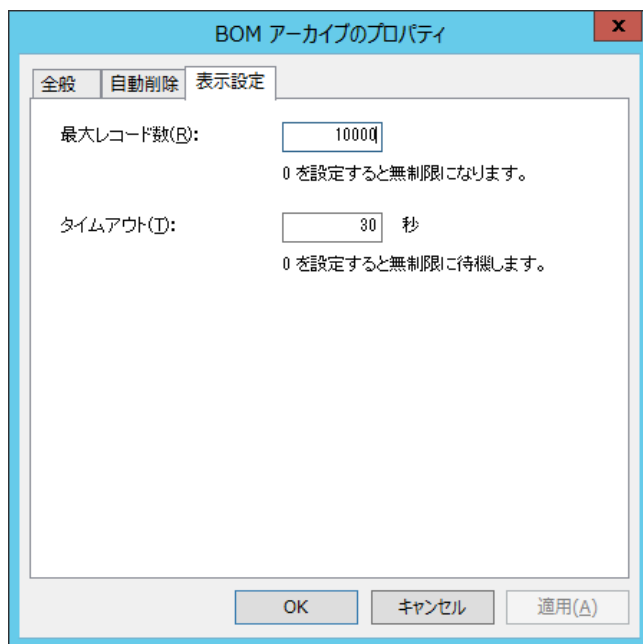
SQL Server を使用する場合は、ディスクがある限り無制限にデータ蓄積することも可能ですが、データベース容量が増えるにつれて SQL Server にかかる負荷も増大し、パフォーマンス低下の原因になりますので、適当な保存日数指定などによる自動削除を推奨します。

- SQL Server Express Edition では SQL Server Agent サービスが 利用できないため、アーカイブデータベースの自動削除は動作しません。回避策として、監視データやログデータの削除用スクリプトがありますので、詳細は‘第 8 章 SQL Server Express Edition へのインストールについて’を参照ください。

6.5 データベースの表示設定

BOM アーカイブマネージャーでアーカイブの内容の表示を行う時の表示方法を指定します。

1. BOM アーカイブマネージャーを起動し、アーカイブデータベースに接続します。
2. スコープペインの“BOM アーカイブ”を右クリックし、コンテキストメニューの“プロパティ”→「表示設定」タブをクリックします。



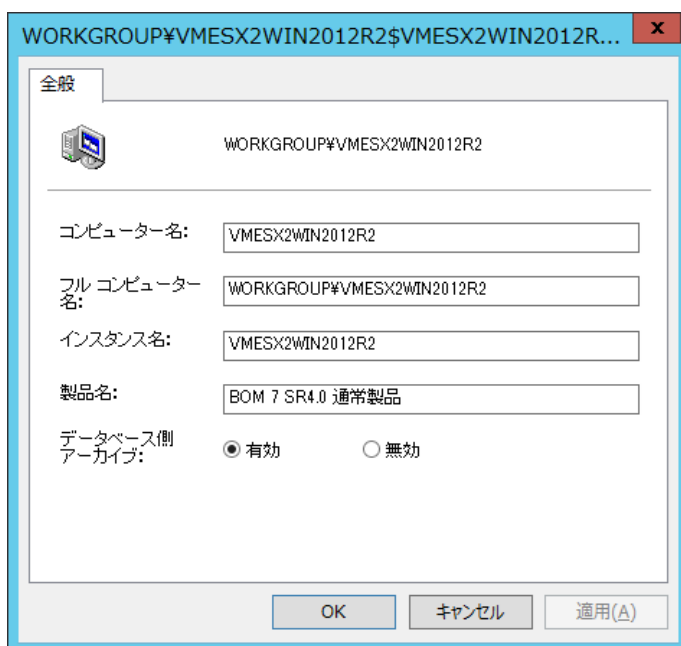
複数のアーカイブデータベースに対して接続している場合、表示設定は共有されます。

- “最大レコード数”
面上に表示する最大レコード数を指定します。
0 にすると無制限になりますが、データ件数によっては表示に時間がかかることがありますのでご注意ください。
- “タイムアウト”
接続タイムアウト時間を秒数で指定します。0 にすると、無制限に待機します。

6.6 インスタンスプロパティ

アーカイブ対象インスタンスの情報確認や、アーカイブの有効・無効の切り替えは、インスタンスのプロパティから実行できます。

1. BOM アーカイブマネージャーを起動し、アーカイブデータベースに接続します。
2. スコープペインの各インスタンス名を右クリックし、コンテキストメニューの“プロパティ”をクリックします。



- コンピューター名、フルコンピューター名、インスタンス名
対象インスタンスの各情報が表示されます。
 - 製品名
対象インスタンスで使用されている BOM の製品情報が表示されます。
 - データベース側アーカイブ
有効: 対象インスタンスの監視データをアーカイブします。(規定値)
無効: 対象インスタンスの監視データはアーカイブせず、送信されたアーカイブデータは受信しません。
メンテナンス等で、一時的にアーカイブ対象から除外したい場合に設定してください。
3. 設定を変更した場合は、[OK]ボタンをクリックすることで反映されます。

6.7 BOM ログビューアー

BOM アーカイブマネージャーでは、アーカイブデータベースに蓄積された監視データログを、監視項目ごとにリストで表示することや、複数の監視項目のデータグラフを重ね合わせて表示することができます。また、表示したグラフは印刷することができます。ログビューアーの基本操作は、表示したい監視項目をコピーし、データ系列セット項目にペーストするだけの簡単操作です。

6.7.1 ログビューアーの基本操作

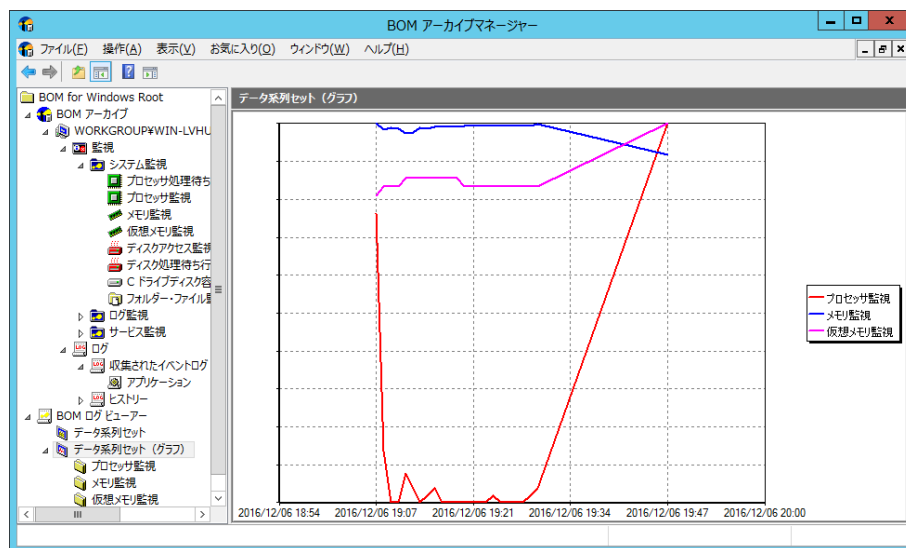
A. データ系列セット

保存されている監視項目ごとのデータをリスト表示します。

B. データ系列セット(グラフ)

保存されている監視項目ごとのデータをグラフ表示します。

複数の監視項目のグラフを重ね合わせて表示することができます。



1. BOM アーカイブマネージャーを起動し、アーカイブデータベースへ接続します。
 2. スcopeペインの“BOM ログビューアー”ノード下に、“データ系列セット”と“データ系列セット(グラフ)”というノードがあります。
 3. データ系列セット、データ系列セット(グラフ)の“プロパティ”には下記のようにデータ表示期間の設定を行うことが可能です。過去の指定範囲のグラフや数ヶ月にさかのぼって表示する場合に、“相対日時”と“絶対日時”のどちらかで設定してください。
 - [OK]ボタンをクリックするとグラフが再描画されますが、表示指定した期間や同時に表示するグラフの数によっては時間がかかることがあります。
 - 指定した期間の途中で監視データが存在していない場合、データが存在しない期間の直前のデータと、データの取得が再開された最初のデータが直線で結ばれたグラフとなります。
- また、グラフの X 軸の表示幅は、表示期間内のデータの蓄積状況によって変化します。

- 表示期間を“相対日時で指定する”とした場合、開始日時の設定は期間に見合った単位（時間前、日前、週間前、ヶ月前）を使ってください。
 - 数字入力ボックスには“0”～“99”までの整数が入力可能です。表示期間が長くなると、アーカイブデータベースに対する負荷が増大するため、BOM アーカイブマネージャーの表示レスポンスが低下し接続のタイムアウトが発生する可能性があります。
 - 複数の監視データのグラフを重ねて表示する場合も同様にコンピューターリソースへの負荷が非常に大きくなります。大量の監視データを一度に表示する必要がある場合、BOM アーカイブデータベース、BOM アーカイブマネージャーを実行するコンピューターのハードウェアスペックを十分に高性能なものとしてください。
 - “データ系列セット”ノードと“データ系列セット(グラフ)”ノードは追加および削除が可能です。
表示結果がリストかグラフかに関わらず、どちらも同じような手順でデータを表示させることができます。
ここからは、“データ系列セット(グラフ)”でデータ表示する場合についての例を解説します。
4. データ系列セットに設定したい監視項目ノードを右クリックして、コンテキストメニューの“コピー”をクリックします。
 5. 続けて“BOM ログビューアー”ノード下の“データ系列セット(グラフ)”を右クリックして、コンテキストメニューの“貼り付け”をクリックします。
 - 複数の監視項目のデータを1つのグラフに表示したい場合は、手順5.の動作を繰り返します。
 6. 監視項目の追加を行うと、“データ系列セット(グラフ)”ノードにグラフが表示されます。
 7. グラフは、リザルトペインの画面サイズに合わせた大きさを計算して表示されます。表示されたグラフは、マウス操作によってサイズ、縦横比、位置、凡例の場所やサイズを変更することができますが、変更結果は保存されません。
 8. データ系列セット(グラフ)に複数の監視項目を追加している場合、グラフは重ね合わせられます。その重ね合わせのグラフ内容は以下になります。
 - 重ねる各監視に変化が明瞭になるスケールをもち、表示時はそのグラフを表示します。
 - 各グラフのスケールは、グラフ表示期間内で最大の値がグラフの最大値となるように設定されています。
 - グラフを重ねる場合は、表示単位を表示しません。

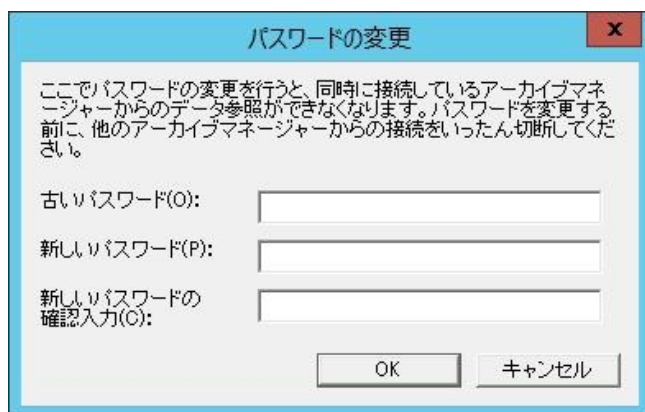
9. 表示されたグラフは印刷することができます(プリンタのインストールが完了している必要があります)。
“データ系列セット(グラフ)”ノードで右クリックし、コンテキストメニューの“印刷”をクリックします。

6.7.2 パスワード変更

BOM アーカイブデータベースへの接続パスワードは変更することができます。

- パスワードはアーカイブデータベースごとに設定されます。
- パスワード設定の制限は、SQL Server の SQL ユーザーアカウントパスワード設定の制限と同じです。

1. アーカイブデータベースに接続した状態で、スコープペインの“BOM アーカイブ”ノードで右クリックし、コンテキストメニューの“プロパティ”をクリックします。
2. [パスワードの変更..]ボタンをクリックします。



3. “パスワードの変更”画面が表示されます。現在のパスワードを“古いパスワード”フィールドに入力し、新しいパスワードを2回入力して[OK]ボタンをクリックします。

アーカイブデータベースインストール時の初期接続パスワードは、<Bom6Archive>(半角英数字)です。

- 設定したパスワードがわからなくなった場合は、Management Studio などを使用して直接、ログインユーザーの“Bom6ArchiveMgrUser”のパスワードを変更してください。
- アーカイブデータベースに接続する際に、“入力したパスワードを保存する”チェックボックスにチェックを入れただけでは、パスワードが保存されません。BOM アーカイブマネージャ終了時に表示される“MMC のマネージャの設定を BOM Archive Manager.msc に保存しますか?”というメッセージで、[はい]ボタンをクリックしてはじめて保存がされますのでご注意ください。

第7章 ヒストリー内のアーカイブ成功メッセージと書かれた格納時期のずれ

アーカイブ処理では、ヒストリーに書き込まれた“アーカイブが終了しました”の記録は次のアーカイブのタイミングでデータベースに書き込まれます。なお、ヒストリーに“アーカイブが終了しました”の文言が記録された時点で、このヒストリーデータ以外のデータはデータベースに書き込まれています。

このことを図式化すると下記ようになります。



| | n 回目 データをアーカイブデータベースへ 送信するタイミング | n+1 回目 データをアーカイブデータベースへ 送信するタイミング |
|--------------------------|---------------------------------------|---|
| アーカイブデータベース上 ヒストリーデータ | n-1 回目の成功または、 失敗のヒストリーデータが 閲覧可能 | n 回目の成功または、 失敗のヒストリーデータが 閲覧可能 |
| ヒストリーデータ以外 | n 回目のデータを 閲覧可能 | n+1 回目のデータを 閲覧可能 |

第8章 SQL Server Express Edition へのインストールについて

1. 導入するコンポーネントについて

SQL Server Express Edition を導入する場合、管理用 GUI が付属している SQL Server Express with Advanced Services、または Microsoft SQL Server Express with Tools を推奨いたします。

2. メンテナンス用ジョブの定期実行について

SQL Server Express Edition では SQL Server Agent サービスが利用できないため、アーカイブデータベースのメンテナンス用ジョブが実行できません。

- 回避方法として、付属ツールのメンテナンススクリプト“Bom6Job.bat”がインストールされたアーカイブデータベースのディレクトリ BOMDB 配下に用意しております。

このスクリプトをタスクスケジューラ等で定期的に行うよう構成してください。

3. アーカイブデータベース管理メニューのエラーについて

SQL Server Express Edition では SQL Server Agent サービスが利用できないため、アーカイブデータベース管理メニューを使用する際、SQL Server Agent サービスの起動エラーメッセージが出力される場合がありますが、仕様上の制限事項ですのでメッセージを無視してください。

4. SQL Server Express Edition を利用する際の注意事項

- SQL Server Agent の有無

SQL Server Express Edition では、SQL Server Agent は作成されますが無効になっており、さらに手動/自動に切り換えでも起動しません。

(SQL Server Agent を起動しようとした際に出力されるエラーメッセージが異なります。)

- 既定のインスタンス

SQL Server Express Edition では、既定の設定で“名前付きインスタンス SQLExpress”を作成するようになっています。

既定のインスタンスを選択しても“名前付きインスタンス SQLExpress”を作成するようになっていますので、注意が必要です。

“名前付きインスタンス MSSQLSERVER”を作成することで、“既定のインスタンス”を作成することができます。

5. 接続プロトコルについて

BOM マネージャーや BOM アーカイブマネージャーは、アーカイブデータベースへ TCP/IP プロトコルを利用し接続します。

SQL Server Express Edition のプロトコルは、既定値が共有メモリのみ“有効”になっており、TCP/IP プロトコルは“無効”の設定でインストールされます。

SQL Server Express Edition を利用しアーカイブデータベースへデータを蓄積する際は SQL Server Express Edition の TCP/IP を“有効”に設定する必要があります。

BOM for Windows Ver.7.0
アーカイブ ユーザーズ マニュアル

2017 年 1 月 1 日 初版
2021 年 5 月 12 日 改訂版

著者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行者 セイ・テクノロジーズ株式会社
発行 セイ・テクノロジーズ株式会社
バージョン Ver.7.0.40.0

© 2017 SAY Technologies, Inc.
